

# 総社市埋蔵文化財調査年報 32

(令和3年度)

2023年3月

岡山県総社市





## 例 言

1. 本書は、総社市が令和3（2021）年度に実施した埋蔵文化財発掘調査及び立会・試掘・確認調査等についてその概要をまとめたものである。
2. 本書の執筆は各調査の担当者である前角和夫・高橋進一（総社市観光プロジェクト課文化財係）・平井典子（総社市埋蔵文化財学習の館館長）が分担して行い文末に執筆者を記した。編集は小林利晴・岩橋惇也（総社市観光プロジェクト課文化財係）が行い、課内で校閲・校正した。
3. 遺物整理にあたっては高田由美子・戸倉久美・和田かほり（総社市埋蔵文化財学習の館）の協力を得た。
4. 本書に関する出土遺物、写真、図面等は総社市埋蔵文化財学習の館（総社市南溝手265番地3）で保管している。

## 凡 例

1. 本書の高度値は海拔高と任意高で、方位は国土座標系の座標北と磁北で示した。
2. 本書掲載の挿図のうち、位置図等の地形図には総社市発行の都市計画図25,000分の1及び2,500分の1をもとに作成したものと『おかやま全県統合型GIS』より転載したものがあり、後者についてのみ出典を表記した。
3. 本書で用いた遺構・遺物の実測図等の縮尺率については各図面に示した。



総社市位置図



# 目 次

例 言  
凡 例

## 1. 総社市埋蔵文化財行政の概要

令和3（2021）年度 埋蔵文化財行政の概要 .....	1
------------------------------	---

## 2. 立会・試掘・確認調査の概要

1. 医療施設建設工事に伴う確認調査 .....	25
2. 個人住宅擁壁建設工事に伴う立会調査 .....	32
3. 総社市役所新庁舎建設に伴う試掘調査 .....	33
4. 分譲住宅開発工事に伴う確認調査 .....	34
5. 電柱建柱工事に伴う立会調査 .....	38
6. 県道271号総社足守線道路改築工事に伴う試掘調査 .....	39
7. 個人住宅浄化槽建設に伴う立会調査 .....	44
8. 電柱建柱工事に伴う立会調査 .....	45

## 3. 発掘調査・市史跡確認調査の概要

1. 駅前二丁目地区における店舗建設に伴う発掘調査 .....	47
2. 宿小山古墳前方部の確認調査 .....	51

## 4. 史跡整備事業の概要

1. 令和3（2021）年度 鬼城山環境整備事業 .....	57
--------------------------------	----



## 図 目 次

<p>第1図 調査位置図 (S=1/100,000)…………… 11</p> <p>第2図 調査位置図&lt;拡大①&gt; (S=1/10,000) …… 12</p> <p>第3図 調査位置図&lt;拡大②&gt; (S=1/10,000) …… 13</p> <p>第4図 調査位置図&lt;拡大③&gt; (S=1/10,000) …… 14</p> <p>第5図 調査位置図&lt;拡大④&gt; (S=1/10,000) …… 15</p> <p>第6図 調査位置図&lt;拡大⑤&gt; (S=1/10,000) …… 16</p> <p>第7図 調査位置図&lt;拡大⑥&gt; (S=1/10,000) …… 17</p> <p>第8図 調査地位置図 (S=1/10,000) …… 25</p> <p>第9図 トレンチ配置図 (S=1/1,500)…………… 26</p> <p>第10図 トレンチ平・断面図①&lt;T-1～T-6&gt; (S=1/40) …… 27</p> <p>第11図 トレンチ平・断面図②&lt;T-7～T-14&gt; (S=1/40) …… 30</p> <p>第12図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 32</p> <p>第13図 土層柱状図 (S=1/40)…………… 32</p> <p>第14図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 33</p> <p>第15図 土層柱状図 (S=1/40)…………… 33</p> <p>第16図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 34</p> <p>第17図 トレンチ配置図 (S=1/1,000)…………… 34</p> <p>第18図 トレンチ平・断面図①&lt;T-1～T-5&gt; (S=1/40) …… 36</p>	<p>第19図 T-3～5位置図 (S=1/100)…………… 36</p> <p>第20図 トレンチ平・断面図②&lt;T-6&gt; (S=1/40) …… 37</p> <p>第21図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 38</p> <p>第22図 土層柱状図 (S=1/40)…………… 38</p> <p>第23図 調査地位置図 (S=10,000) …… 40</p> <p>第24図 トレンチ配置図 (S=2,000)…………… 40</p> <p>第25図 トレンチ平・断面図①&lt;T-1～T-5&gt; (S=1/40) …… 41</p> <p>第26図 トレンチ平・断面図②&lt;T-6～T-10&gt; (S=1/40) …… 42</p> <p>第27図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 44</p> <p>第28図 土層柱状図 (S=1/40)…………… 44</p> <p>第29図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 45</p> <p>第30図 土層柱状図 (S=1/40)…………… 45</p> <p>第31図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 47</p> <p>第32図 遺構配置図 (S=1/100)…………… 49</p> <p>第33図 調査地位置図 (S=1/5,000)…………… 51</p> <p>第34図 前方部の形状とトレンチ配置図 (S=1/300)… 53</p> <p>第35図 T-21平・断面図 (S=1/30)…………… 54</p> <p>第36図 T-24平・断面図 (S=1/30)…………… 54</p> <p>第37図 T-23平・立面図 (S=1/30)…………… 54</p>
---	--

## 図 版 目 次

<p>第1図版 調査地全景…………… 32</p> <p>第2図版 掘削状況…………… 32</p> <p>第3図版 調査地全景…………… 33</p> <p>第4図版 T-1土層断面…………… 33</p> <p>第5図版 掘削状況…………… 38</p> <p>第6図版 柱穴断面…………… 38</p> <p>第7図版 調査地全景…………… 44</p> <p>第8図版 浄化槽掘削断面…………… 44</p> <p>第9図版 調査地全景…………… 45</p> <p>第10図版 掘削断面…………… 45</p> <p>第11図版 住居址-1の竈の半裁状況…………… 50</p> <p>第12図版 住居址-2埋没後に築かれた炭窯-1の 被熱壁面…………… 50</p> <p>第13図版 P-34高杯出土状況…………… 50</p>	<p>第14図版 柱穴内の礎石…………… 50</p> <p>第15図版 調査区完掘状況…………… 50</p> <p>第16図版 T-19検出状況(北から)…………… 55</p> <p>第17図版 T-17～T-19検出状況(北から)…………… 55</p> <p>第18図版 T-16～T-18検出状況(南から)…………… 55</p> <p>第19図版 T-12葺石転落状況(南から)…………… 55</p> <p>第20図版 T-21墳丘東端と葺石転落状況(西から)… 55</p> <p>第21図版 T-24前方部北東端検出状況(北東から)… 55</p> <p>第22図版 T-23葺石出土状況(北から)…………… 55</p> <p>第23図版 T-23葺石出土状況(東から)…………… 55</p> <p>第24図版 西門東側版築土塁損壊状況(南から) …… 58</p> <p>第25図版 版築土塁天端ブルーシートによる保護 (東から)…………… 58</p>
---	--

## 表 目 次

第1表	令和3年度 埋蔵文化財発掘の届出・通知一覧 ..... 2～9	第6表	鬼ノ城来訪者数..... 22
第2表	令和3年度 試掘・確認調査の報告(99条) 一覧..... 10	第7表	埋蔵文化財学習の館来館者数..... 22
第3表	令和3年度 発掘調査の報告(92条) 一覧... 10	第8表	令和3年度 埋蔵文化財学習の館来館者内訳 ..... 22
第4表	令和3年度 発掘調査一覧..... 10	第9表	令和3年度 収蔵資料の貸出一覧..... 23
第5表	令和3年度 埋蔵文化財事前調査一覧... 18～21	第10表	令和3年度 資料調査一覧..... 23
		第11表	令和3年度 普及啓発一覧..... 24

## 1. 総社市埋蔵文化財行政の概要



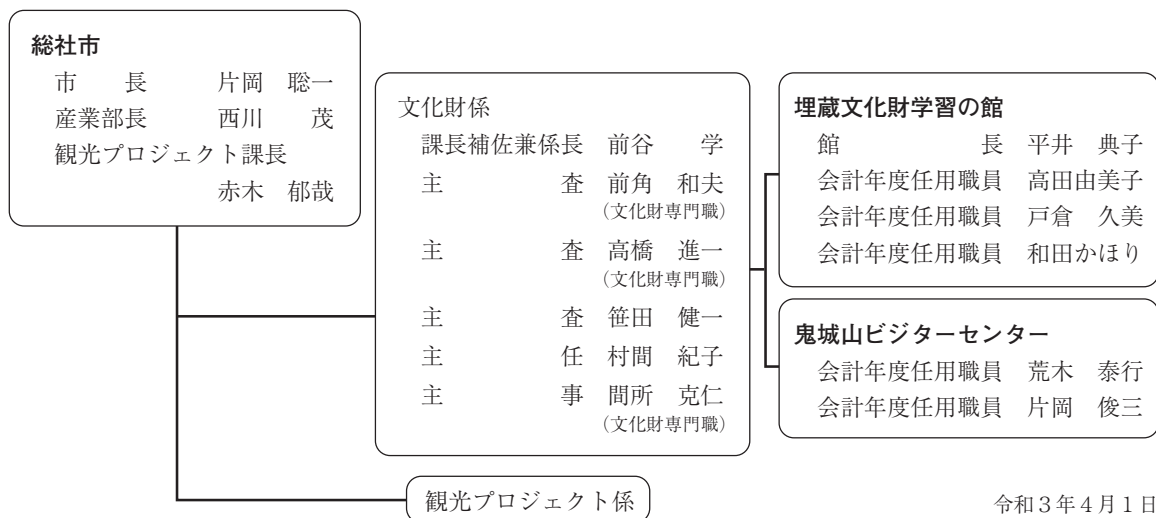


# 令和3(2021)年度 埋蔵文化財行政の概要

総社市の埋蔵文化財行政は、総社市教育委員会に属していた文化財係が令和元年の機構改革により総社市産業部観光プロジェクト課へ移り、令和3年度も同課において史跡整備事業、開発行為に伴って実施する立会調査・確認調査・試掘調査、記録保存のための発掘調査等を行った。各種事業における現地調査等は、専門職員3人で対応した。総社市は、県下でも岡山市に次いで埋蔵文化財包蔵地が2番目に多い所である。各種開発行為による対応もそれに比例するように数多い。その数は年々増加傾向にあり、当該年度は200件を超えた。近年の傾向として、住宅新築工事とそれに伴い、宅地造成、電柱新設などの開発が増加している。

また、出先機関としては総社市埋蔵文化財学習の館と鬼城山ビジターセンターの2施設がある。前者は市内出土の埋蔵文化財の整理保管・展示案内等、後者は国指定史跡鬼城山の概要等の展示・普及啓発等を行っている。

## 〔組織〕



令和3年4月1日

## 〔埋蔵文化財の調査〕

令和3年度の総社市内における埋蔵文化財包蔵地内での開発事業に関する文化財保護法93条の届出及び94条の通知は、合計で224件を数える。県からの指示内容の内訳は、工事立会が188件、慎重工事が34件、発掘調査が2件である。開発行為の種別は、住宅建築が102件、宅地造成が49件、電柱新設が54件となり、この3種で全体の9割を超える。

発掘調査には、民間開発事業に伴い行った荒神ヶ市遺跡や、史跡整備関連で計2回行った市指定史跡の宿小山古墳などがある。詳細は「3. 発掘調査・市史跡確認調査概要」に記している。

試掘・確認調査は、総社遺跡・井手村後遺跡など計3件行った。いずれも民間事業関連の開発である。詳細は「2. 立会・試掘・確認調査の概要」に記している。

第1表 令和3年度 埋蔵文化財発掘の届出・通知一覧

番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
1	4月1日	電柱建柱	井手893	立会調査	2号	井手村後遺跡	—
2	4月5日	電柱建柱	上原192-1	立会調査	3号	上原遺跡	—
3	4月5日	個人住宅	井手962-4	立会調査	4号	井手村後遺跡	—
4	4月5日	個人住宅	秦3351-2	立会調査	5号	名称未定遺跡	GL-0.7mまで掘削。 旧宅地の造成土内に収まる。
5	4月6日	個人住宅	南溝手190-1	立会調査	8号	北溝手遺跡	—
6	4月8日	個人住宅	南溝手444-5	立会調査	13号	大文字遺跡	GL-0.3mで遺構を確認。
7	4月8日	宅地造成	福井982-1	立会調査	14号	新田古墳群	GL-1mまで掘削。遺物・遺構なし。
8	4月9日	宅地造成	西郡958-1外	立会調査	16号	名称未定遺跡	—
9	4月12日	その他 (古墳芝張り)	秦1234-1	慎重工事	20号	金子古墳群	—
10	4月13日	電柱建柱	金井戸230-2	立会調査	23号	総社遺跡	遺物なし・遺構は確認できず。
11	4月13日	電柱建柱	総社2536-3	慎重工事	24号	宮後遺跡	—
12	4月19日	個人住宅	小寺2044, 146-4	立会調査	29号	広峰遺跡	柱状改良時に調査。
13	4月19日	個人住宅	総社三丁目1095-14	慎重工事	32号	諸上遺跡	—
14	4月20日	個人住宅	井手210-1	立会調査	33号	延遺跡	柱状改良時に調査。
15	4月21日	宅地造成	南溝手325-8	立会調査	42号	大文字遺跡	遺構・遺物の存在を確認。
16	4月21日	宅地造成	南溝手295-27	発掘調査	43号	賀夜廃寺(栢寺廃寺跡)	—
17	4月23日	個人住宅	小寺175-1	立会調査	37号	広峰遺跡	GL-0.4mまで掘削。
18	4月27日	個人住宅	金井戸449-12	立会調査	49号	金井戸鴻崎遺跡	GL-1.55mまで掘削。遺物・遺構なし。
19	4月26日	集合住宅	中央四丁目16-112, 16-113, 16-114	立会調査	50号	真壁遺跡	北側の擁壁掘削時に調査。 東端で柱穴を検出。
20	4月30日	個人住宅	総社三丁目1095-18	立会調査	51号	諸上遺跡	GL-0.4mまで掘削。
21	4月21日	宅地造成	富原383-2	立会調査	52号	上原遺跡	—
22	4月30日	個人住宅	真壁380-13	慎重工事	54号	真壁遺跡	—
23	5月6日	個人住宅	井手876-7	立会調査	55号	井手見延遺跡	GL-1.5mまで掘削。遺物・遺構なし。
24	5月10日	個人住宅	地頭片山68-6	慎重工事	56号	明治池周辺遺跡	—
25	5月11日	個人住宅	中央四丁目4-107	慎重工事	59号	中村遺跡	—
26	3月5日	店舗	駅前二丁目16-101, 16-108	発掘調査	62号	荒神ヶ市遺跡	次項参照
27	5月17日	個人住宅	小寺291-1	立会調査	74号	小寺御崎神社前遺跡	GL-1.75mまで掘削。遺物・遺構なし。
28	5月18日	電柱建柱	小寺291-1	立会調査	79号	小寺御崎神社前遺跡	—
29	5月20日	店舗	中央五丁目4-108	立会調査	83号	真壁遺跡	—

番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
30	5月25日	その他 (基地局設置)	真壁158-4	立会調査	86号	真壁遺跡	GL-0.5mまで掘削。
31	5月25日	個人住宅	宿566-6, 566-7	立会調査	87号	宿寺山古墳	—
32	5月25日	電柱建柱	井尻野1375-1, 1378-1, 1378-2	立会調査	88号	井尻野遺跡	北東隅のみで、GL-2mで砂礫になる。東端と西側の地点では、GL-2.5mまで砂礫が確認できず。
33	5月25日	宅地造成	清音三因986-5	立会調査	89号	北山古墳群	—
34	5月27日	個人住宅	井尻野261-1外	立会調査	90号	井尻野西村遺跡	GL-0.4mまで掘削。
35	5月28日	電柱建柱	清音軽部873-2地先	慎重工事	91号	軽部遺跡	—
36	5月31日	個人住宅	金井戸381-1	立会調査	94号	金井戸天原遺跡	GL-1.75mまで掘削。遺物・遺構なし。
37	5月31日	その他 (基地局設置)	北溝手209-1	立会調査	96号	北溝手遺跡	—
38	5月31日	宅地造成	窪木741-1	立会調査	98号	窪木遺跡	—
39	6月2日	個人住宅	井手506-6	立会調査	115号	延遺跡	柱状改良時に調査。
40	6月2日	宅地造成	井手424-7, 424-8	立会調査	116号	井手村後遺跡	—
41	6月3日	個人住宅	清音軽部229-1, 229-4	立会調査	118号	軽部遺跡	GL-1.1mまで掘削。遺物・遺構なし。
42	6月3日	その他 (基地局設置)	福井1165-2	立会調査	119号	泉団地遺跡群	建柱工事時に調査。
43	6月4日	宅地造成	金井戸344-12	慎重工事	121号	金井戸天原遺跡	—
44	6月8日	電柱建柱	三輪674-1地先	立会調査	126号	三輪遺跡群	—
45	6月8日	個人住宅	総社三丁目1095-17	慎重工事	127号	諸上遺跡	—
46	6月9日	宅地造成	地頭片山93-1	立会調査	129号	明治池周辺遺跡	GL-1.2mまで掘削。遺物・遺構なし。
47	6月9日	個人住宅	井手305, 305-1	立会調査	131号	延遺跡	GL-0.4mまで掘削。
48	6月15日	電柱建柱	南溝手191	立会調査	139号	北溝手遺跡	—
49	6月15日	店舗	中央四丁目22-111, 112, 115	立会調査	140号	真壁遺跡	GL-1.4mまで掘削。造成土内に収まる。遺物・遺構なし。
50	6月17日	宅地造成	井尻野1375-1, 1377-1, 1378-1, 1378-2	立会調査	144号	井尻野遺跡	GL-0.5mまで掘削。地山を検出するも遺物・遺構なし。
51	6月21日	個人住宅	井手210-8	立会調査	151号	延遺跡	掘削は水田耕作土まで達せず。
52	6月21日	宅地造成	金井戸345-8	立会調査	152号	金井戸天原遺跡	擁壁掘削時に調査。造成土内に収まる。
53	6月23日	個人住宅	窪木703-4	立会調査	160号	窪木遺跡	—
54	6月24日	個人住宅	地頭片山93-1	慎重工事	161号	明治池周辺遺跡	—
55	6月25日	個人住宅	井手877-9	立会調査	164号	井手村後遺跡	GL-0.3mで礫層になる。
56	6月28日	個人住宅	総社三丁目1095-15	立会調査	168号	諸上遺跡	GL-0.4mまで掘削。
57	7月1日	電柱建柱	南溝手232-1, 251-1, 272-7	立会調査	175号	南溝手遺跡	建柱工事時に調査。
58	7月2日	宅地造成	窪木881-7, 881-8	立会調査	177号	窪木遺跡	—

番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
59	7月2日	宅地造成	窪木882-7, 882-10	立会調査	178号	窪木遺跡	—
60	7月2日	宅地造成	秦3464-1, 3466	立会調査	182号	名称未定遺跡	擁壁部分の調査ではGL-0.7mで円礫層になる。遺構・遺物なし。柱状改良部分では、礫層が西で1m, 東で3.4m視野にあり, 東側に後背湿地の存在を想定。
61	7月5日	個人住宅	宿1037-1	立会調査	185号	前池周辺遺跡	—
62	7月5日	その他 (看板設置)	中央三丁目14-106	立会調査	186号	真壁遺跡	看板設置工事時に調査。遺物なし, 遺構は確認できず。
63	7月6日	宅地造成	清音軽部424-1	立会調査	188号	軽部遺跡	上水道接続部を調査。茶褐色粘土層を確認。
64	7月6日	電柱建柱	総社三丁目41-9地先	立会調査	189号	諸上遺跡	建柱工事時に調査。
65	7月7日	個人住宅	南溝手325-8	立会調査	195号	大文字遺跡	基礎掘削は盛土内に収まる。
66	7月7日	宅地造成	三須1315-2, 1315-3	立会調査	196号	三須遺跡群	—
67	7月8日	電柱建柱	金井戸201-2地先	立会調査	198号	金井戸天原遺跡	建柱工事時に調査。
68	7月12日	宅地造成	南溝手444-6	立会調査	203号	大文字遺跡	—
69	7月13日	個人住宅	井手1024-9	立会調査	208号	井手村後遺跡	—
70	7月19日	電柱建柱	三須1229-1地先外	立会調査	220号	三須遺跡群	電柱2本とも円礫層にぶつかる。
71	7月21日	個人住宅	清音三因524-3	立会調査	225号	峠古墳群	掘削はGL-0.35mで, 山土か旧水田を確認。
72	7月26日	電柱建柱	清音軽部229-4	立会調査	235号	軽部遺跡	旧河道の堆積と思われる暗灰色粘土を確認。
73	7月26日	個人住宅	福井982-1	立会調査	240号	泉団地遺跡群	擁壁時に調査。表土直下で礫層を確認。
74	7月27日	個人住宅	井手496-6, 496-7	立会調査	242号	延遺跡	—
75	7月28日	個人住宅	井手969-14	慎重工事	243号	井手村後遺跡	—
76	7月28日	個人住宅	井手509-2, 510-2	立会調査	245号	延遺跡	—
77	7月29日	電柱建柱	北溝手222-3外	慎重工事	248号	北溝手遺跡	—
78	8月4日	電柱建柱	南溝手325-1	立会調査	255号	大文字遺跡	茶褐色粘質土の包含層もしくは遺構を確認。
79	8月10日	電柱建柱	南溝手295-3	立会調査	263号	賀夜廃寺(栢寺廃寺跡)	—
80	8月11日	電柱建柱	見延1673-3	立会調査	266号	藪田古墳群	山土系の埋土を確認。
81	8月12日	電柱建柱	南溝手286-5地先	立会調査	267号	北溝手遺跡	—
82	8月19日	宅地造成	金井戸449-14	立会調査	279号	金井戸鴻崎遺跡	擁壁掘削時に調査。西端で包含層確認。
83	8月24日	個人住宅	福井1600-121	慎重工事	287号	福井大塚古墳群	—
84	8月24日	個人住宅	駅南一丁目35-24	立会調査	288号	三輪遺跡群	柱状改良時に調査。GL-4m付近で礫層確認。
85	8月24日	電柱建柱	窪木68地先	立会調査	289号	窪木遺跡	—
86	8月10日	個人住宅	中央五丁目12-106	慎重工事	291号	真壁遺跡	—

番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
87	8月24日	土砂採取	井尻野1580-1外	立会調査	292号	井尻野古墳群	—
88	6月23日	個人住宅	井手1092-6, 1092-7	立会調査	293号	井手村後遺跡	上下水道の掘削時に調査。水田層まで収まる。
89	8月26日	個人住宅	井手501-2, 501-3, 502-1	立会調査	294号	延遺跡	柱状改良時に調査。GL-0.3mで砂礫層を確認。
90	8月27日	個人住宅	井手625-5	立会調査	295号	清水角遺跡	柱状改良時に調査。GL-4mで礫層を確認。
91	8月27日	宅地造成	北溝手28-5, 28-9	立会調査	303号	服部遺跡	掘削は造成土内で収まる。
92	8月27日	宅地造成	北溝手28-7	立会調査	304号	服部遺跡	—
93	9月1日	宅地造成	福井208-3	立会調査	306号	神明遺跡	立会時すでに基礎コンクリートが施工されていた。遺物出土。
94	9月1日	個人住宅	清音三因524-3	慎重工事	307号	峠古墳群	—
95	9月3日	宅地造成	中央三丁目12-114	立会調査	309号	真壁遺跡	—
96	9月3日	宅地造成	清音軽部255-2, 255-3, 255-5	立会調査	310号	軽部遺跡	中世の堆積層を確認。
97	9月6日	宅地造成	南溝手305-9, 305-10	立会調査	316号	大文字遺跡	中世の包含層を確認。炭・焼土が分布する。
98	9月9日	個人住宅	清音三因998-27	立会調査	320号	北山古墳群	—
99	9月13日	その他(広告)	三須1533-1	立会調査	327号	三須遺跡群	掘削は水田層まで収まる。
100	9月13日	宅地造成	井手877-10	立会調査	328号	井手村後遺跡	擁壁の掘削時に調査。GL-0.5mまで掘削し、水田層のみを確認。
101	9月13日	宅地造成	宿1724-1	立会調査	329号	名称未定遺跡	擁壁部分を調査。谷地形の堆積土を確認。
102	9月15日	電柱建柱	北溝手307-2, 319-3地先	立会調査	334号	深町遺跡	GL-3mまで掘削。GL-1.5mまで攪乱層で、それ以下は粘土層。
103	9月16日	個人住宅	駅南二丁目10-30	立会調査	336号	三輪遺跡群	—
104	9月22日	個人住宅	井手1024-8	立会調査	341号	井手村後遺跡	—
105	9月24日	その他(広告)	金井戸337-7	立会調査	342号	金井戸天原遺跡	遺物の出土はないが、微高地相当層を確認。
106	9月27日	個人住宅	富原383-2	立会調査	346号	上原遺跡	柱状改良時に調査。確認できた埋土は真砂土のみ。
107	9月28日	個人住宅	地頭片山68-1の一部	慎重工事	350号	明治池周辺遺跡	—
108	9月29日	その他(資材置場)	岡谷717-1, 718-1	立会調査	354号	名称未定遺跡	谷地形の斜面堆積を確認。
109	9月30日	電柱建柱	井手559-1	立会調査	356号	早溝遺跡	GL-1.4mで礫層に至る。遺物なし。
110	9月30日	電柱建柱	福谷1365, 1365地先	立会調査	357号	名称未定遺跡	GL-0.6mまで攪乱層。その下はGL-1.9mまで微砂が続く。
111	10月4日	宅地造成	井手111-1外	立会調査	364号	井手役所跡遺跡	西側と北側で遺構を検出。
112	10月4日	宅地造成	井手507-3	立会調査	369号	早溝遺跡	—
113	10月5日	個人住宅	南溝手295-27	立会調査	370号	賀夜廃寺(栢寺廃寺跡)	GL-1mで微高地確認。
114	10月7日	宅地造成	秦3347-8, 3348-6	立会調査	372号	名称未定遺跡	—
115	10月11日	個人住宅	地頭片山68-1, 68-8	慎重工事	378号	明治池周辺遺跡	—
116	10月12日	電柱建柱	下原694-7	立会調査	382号	伊与部古墳群	—

番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
117	10月12日	電柱建柱	秦3767-1	立会調査	383号	名称未定遺跡	褐色の微砂層が続き、GL-1.6mから玉砂利が混じる。
118	10月12日	電柱建柱	金井戸126-1地先	慎重工事	387号	総社遺跡	—
119	10月12日	個人住宅	窪木724-5, 729-1	立会調査	388号	窪木遺跡	GL-1.8mまで掘削。遺物・遺構なし。
120	10月13日	電柱建柱	福谷1355-1, 1356-5, 1360	立会調査	390号	名称未定遺跡	建柱工事時に調査。
121	10月14日	個人住宅	富原693-3	立会調査	391号	上原遺跡	浄化槽掘削時に調査。GL-1.4mまでの掘削で包含層確認できず。
122	10月15日	電柱建柱	井手366-4地先	立会調査	395号	延遺跡	建柱工事時に調査。
123	10月19日	農業関係	山田188-1地先	立会調査	400号	砂子山古墳群	掘削は旧畑の土まで。
124	10月19日	電柱建柱	井尻野1246地先	立会調査	401号	井尻野遺跡	GL-1.5mまで掘削。微砂層の下は円礫層。
125	10月19日	個人住宅	金井戸344-12	立会調査	402号	金井戸天原遺跡	—
126	10月20日	電柱建柱	総社1170-1地先, 1173-1地先	立会調査	405号	総社遺跡	建柱工事時に調査。
127	10月29日	個人住宅	金井戸229-1, 230-2	立会調査	416号	総社遺跡	浄化槽掘削時に調査。GL-1.8mまで掘削。包含層確認できず。
128	10月29日	宅地造成	清音軽部298-1, 302-1	立会調査	417号	軽部遺跡	GL-1mまで掘削。中世以降の包含層を確認。
129	10月29日	個人住宅	秦3464-1, 3466	立会調査	418号	名称未定遺跡	—
130	10月29日	電柱建柱	総社862-5	立会調査	419号	宮後遺跡	建柱工事時に調査。
131	10月8日	農業関係	山田188-1外	立会調査	427号	砂子山古墳群	表土下に真砂土を確認。遺構・遺物なし。
132	11月4日	宅地造成	井手669-1外	立会調査	429号	井手村後遺跡	清水城の堀を確認か。
133	10月8日	個人住宅	金井戸449-14	立会調査	437号	金井戸鴻崎遺跡	浄化槽埋設工事時に調査。GL-1.7mまで掘削。GL-0.85m以下に微高地相当層を確認するが、遺構・遺物は確認できず。
134	11月8日	個人住宅	清音軽部201-3	慎重工事	438号	軽部遺跡	—
135	11月9日	電柱建柱	南溝手335地先	立会調査	439号	大文字遺跡	—
136	11月12日	その他 (看板設置)	長良4-13, 4-14, 4-15	慎重工事	443号	長良小田中遺跡	—
137	11月12日	電柱建柱	井手192-1	立会調査	444号	延遺跡	建柱工事時に調査。
138	11月12日	電柱建柱	窪木881-7	立会調査	445号	窪木遺跡	建柱工事時に調査。
139	11月16日	個人住宅	井手1129-6, 1130-7	慎重工事	448号	清水角遺跡	—
140	11月18日	電柱建柱	赤浜843-1	立会調査	449号	下林古墳群	GL-2mまで掘削。表土直下から地山になる様を確認。
141	11月19日	個人住宅	清音軽部424-6, 424-9	立会調査	450号	軽部遺跡	—
142	11月22日	個人住宅	清音軽部852-1	慎重工事	452号	軽部遺跡	—
143	11月25日	個人住宅	清音軽部298-1, 302-1	立会調査	458号	軽部遺跡	—
144	11月26日	個人住宅	金井戸345-8	立会調査	464号	金井戸天原遺跡	—
145	11月29日	個人住宅	中央四丁目26-109	立会調査	465号	真壁遺跡	柱状改良時に調査。



番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
146	11月30日	個人住宅	中央四丁目26-116	立会調査	466号	真壁遺跡	柱状改良時に調査。
147	12月3日	電柱建柱	井手424-7	立会調査	474号	井手村後遺跡	—
148	12月3日	電柱建柱	北溝手243-10	立会調査	475号	北溝手遺跡	—
149	12月3日	電柱建柱	下原691-6	立会調査	476号	伊与部古墳群	—
150	12月3日	個人住宅	井手192-1, 204-3	慎重工事	477号	延遺跡	—
151	12月3日	個人住宅	駅南一丁目2-16, 2-26	慎重工事	478号	荒神ヶ市遺跡	—
152	12月6日	個人住宅	中原104-8	慎重工事	479号	中原大下遺跡	—
153	12月7日	個人住宅	井手424-7, 424-8	立会調査	481号	井手村後遺跡	GL-1.5 ~ 2mで礫層を確認
154	12月8日	電柱建柱	久代5902-20	立会調査	482号	浦越古墳群	建柱工事時に調査。
155	12月13日	個人住宅	地頭片山96-1	立会調査	494号	明治池周辺遺跡	GL-0.5mまで掘削。
156	12月14日	電柱建柱	南溝手802	立会調査	495号	大文字遺跡	—
157	12月14日	個人住宅	井手496-6, 496-7	立会調査	498号	延遺跡	—
158	12月15日	個人住宅	南溝手444-6	立会調査	499号	大文字遺跡	柱状改良時に調査。
159	12月16日	宅地造成	窪木661-5	立会調査	503号	窪木遺跡	—
160	12月17日	電柱建柱	総社1766-1地先外	立会調査	506号	神明遺跡, 刑部遺跡	GL-1.5mまで確認。 遺物・遺構なし。
161	12月21日	宅地造成	上林320-2	立会調査	516号	緑山古墳群	擁壁掘削時に調査。GL-0.5mまで掘削し谷地形の堆積土を確認。
162	12月21日	個人住宅	清音軽部424-7	慎重工事	517号	軽部遺跡	—
163	12月22日	宅地造成	井尻野1427-1, 1427-8, 1427-12, 1428-1, 1428-2, 1428-3, 1610-2, 1611-4	立会調査	519号	井尻野遺跡	—
164	12月24日	個人住宅	井尻野1375-15	立会調査	534号	井尻野遺跡	—
165	12月24日	個人住宅	井尻野1375-1	立会調査	535号	井尻野遺跡	—
166	12月24日	個人住宅	井尻野1375-14	立会調査	536号	井尻野遺跡	—
167	1月4日	個人住宅	原1022, 1033	立会調査	537号	薬師堂上遺跡	—
168	12月28日	電柱建柱	清音柿木701-2	立会調査	540号	軽部遺跡	—
169	1月5日	電柱建柱	窪木724-6	立会調査	541号	南溝手遺跡	—
170	1月11日	電柱建柱	井手806-1	立会調査	549号	井手見延遺跡	—
171	1月11日	個人住宅	窪木882-2, 882-50	立会調査	551号	窪木遺跡	柱状改良時に調査。
172	1月14日	宅地造成	井手876-8	立会調査	556号	井手村後遺跡	—
173	1月14日	宅地造成	井手876-9	慎重工事	557号	井手見延遺跡	—
174	1月14日	その他 (広告)	宿1837-2	立会調査	560号	鎌戸原遺跡	掘削箇所は埋没谷の様相。

番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
175	1月14日	その他(広告)	三須1533-1	慎重工事	561号	三須遺跡群	—
176	1月14日	その他(広告)	駅南一丁目28-1	立会調査	562号	三輪遺跡群	—
177	1月18日	集合住宅	井尻野1427-1外	立会調査	563号	井尻野遺跡	—
178	1月18日	集合住宅	福井2060-1外	立会調査	564号	宮後遺跡	—
179	1月14日	電柱建柱	井手669-1	立会調査	577号	井手村後遺跡	建柱工事時に調査。
180	1月14日	電柱建柱	井手1233	立会調査	578号	金井戸新田遺跡	建柱工事時に調査。
181	1月20日	宅地造成	三須1231-7, 1231-8	立会調査	581号	三須遺跡群	—
182	1月19日	電柱建柱	宿566-1	立会調査	582号	宿寺山古墳	—
183	1月12日	その他(土壌改良)	岡谷283-1	立会調査	590号	角力取山古墳	94条 GL-0.3mまで掘削。 粘土質の土層を確認。遺物なし。
184	1月24日	宅地造成	井手210-16	立会調査	594号	延遺跡	—
185	1月25日	個人住宅	井尻野1375-5	立会調査	596号	井尻野遺跡	柱状改良時に調査。
186	1月28日	宅地造成	井手916-6, 916-7	立会調査	599号	井手見延遺跡	—
187	1月31日	宅地造成	秦3304-7	立会調査	600号	名称未定遺跡	—
188	2月1日	電柱建柱	宿931-3外	慎重工事	601号	宿古墳群	—
189	2月1日	宅地造成	金井戸205-1	立会調査	602号	金井戸天原遺跡	—
190	2月1日	宅地造成	金井戸205-5	立会調査	603号	金井戸天原遺跡	—
191	2月4日	宅地造成	清音軽部691-1	立会調査	621号	軽部遺跡	—
192	2月9日	電柱建柱	井尻野1020-46	立会調査	626号	井尻野古墳群	建柱工事時に調査。
193	2月14日	個人住宅	井手669-1	立会調査	629号	井手村後遺跡	—
194	2月14日	個人住宅	井手669-1	立会調査	630号	井手村後遺跡	柱状改良時に調査。
195	2月14日	個人住宅	井手669-1	立会調査	631号	井手村後遺跡	—
196	2月14日	個人住宅	井手669-1	立会調査	632号	井手村後遺跡	—
197	2月14日	個人住宅	井手669-1	立会調査	633号	井手村後遺跡	—
198	2月14日	個人住宅	井手669-1	立会調査	634号	井手村後遺跡	—
199	2月14日	個人住宅	井手669-1	立会調査	635号	井手村後遺跡	—
200	2月17日	集合住宅	井尻野1020-26, 1020-37	立会調査	637号	井尻野古墳群	柱状改良時に調査。
201	2月21日	電柱建柱	窪木882-1地先	立会調査	640号	窪木遺跡	—
202	2月22日	個人住宅	中央一丁目9-111, 9-126	立会調査	641号	彼ノ城遺跡	—
203	2月22日	電柱建柱	秦3436-2, 3440	立会調査	643号	名称未定遺跡	—



番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
204	2月25日	宅地造成	南溝手303-7, 303-8	立会調査	648号	賀夜廃寺(栢寺廃寺跡)	3か所を調査。全ての箇所でGL-0.3～0.4mで包含層を確認。
205	2月28日	宅地造成	清音三因104-1, 104-3, 105, 108-3	立会調査	651号	名称未定遺跡	—
206	3月1日	宅地造成	清音軽部1536-6	立会調査	659号	下軽部遺跡	擁壁部分を3か所調査。GL-0.4mまで掘削。すべての箇所で包含層確認できず。
207	3月3日	個人住宅	地頭片山96-11	慎重工事	664号	明治池周辺遺跡	—
208	3月4日	個人住宅	井手507-3	立会調査	671号	延遺跡	—
209	3月7日	電柱建柱	福谷1570-19, 1570-20	立会調査	674号	名称未定遺跡	—
210	3月7日	集合住宅	中央五丁目10-103, 10-108	立会調査	676号	真壁遺跡	—
211	3月10日	集合住宅	駅南二丁目32-13	慎重工事	678号	三輪遺跡群	—
212	3月10日	集合住宅	駅南二丁目32-14	慎重工事	679号	三輪遺跡群	—
213	3月10日	集合住宅	駅南二丁目32-15	慎重工事	680号	三輪遺跡群	—
214	3月15日	集合住宅	総社1013-1, 1013-3, 1013-8の各一部	立会調査	691号	清水角遺跡	—
215	3月15日	集合住宅	総社1013-1, 1013-3, 1013-4, 1013-5, 1013-8の各一部, 1013-7	立会調査	692号	清水角遺跡	基礎掘削工事の際に立会。GL-0.35mまで造成土であることを確認。
216	3月15日	個人住宅	小寺26-6	立会調査	693号	宮後遺跡	—
217	3月18日	宅地造成	岡谷260-3, 260-4, 260-5	立会調査	695号	名称未定遺跡	—
218	3月18日	個人住宅	井手734	立会調査	696号	井手村後遺跡	基礎掘削工事の際に調査。GL-0.4mまで掘削するが、造成土内に収まる。
219	3月22日	電柱建柱	原2516	立会調査	700号	薬師堂下遺跡	表土直下で地山に達する。包含層確認できず。
220	3月22日	電柱建柱	真壁1157-1	立会調査	701号	阿弥陀遺跡	GL-1.5mまで確認。耕作土直下で包含層確認。
221	3月18日	宅地造成	富原888-7	立会調査	703号	上原遺跡	擁壁部分を3か所調査。GL-0.5mまで掘削。すべての箇所で包含層確認できず。
222	3月22日	個人住宅	三須1350-6, 1350-13	立会調査	707号	三須遺跡群	0.4mの掘削で遺構・遺物確認できず。
223	3月22日	個人住宅	三須1350-7, 1350-14	立会調査	709号	三須遺跡群	—
224	3月23日	個人住宅	真壁906-1	立会調査	711号	図ノ木遺跡	—

第2表 令和3年度 試掘・確認調査の報告（99条）一覧

番号	遺跡名	所在地	調査契機	調査期間	担当者
1	総社遺跡	総社市金井戸126番1外	その他建物	4月21日～4月30日	前角
2	井手村後遺跡	総社市井手669番1外	宅地造成	12月1日～12月3日	前角
3		総社市黒尾地内	道路	12月20日～12月24日	前角

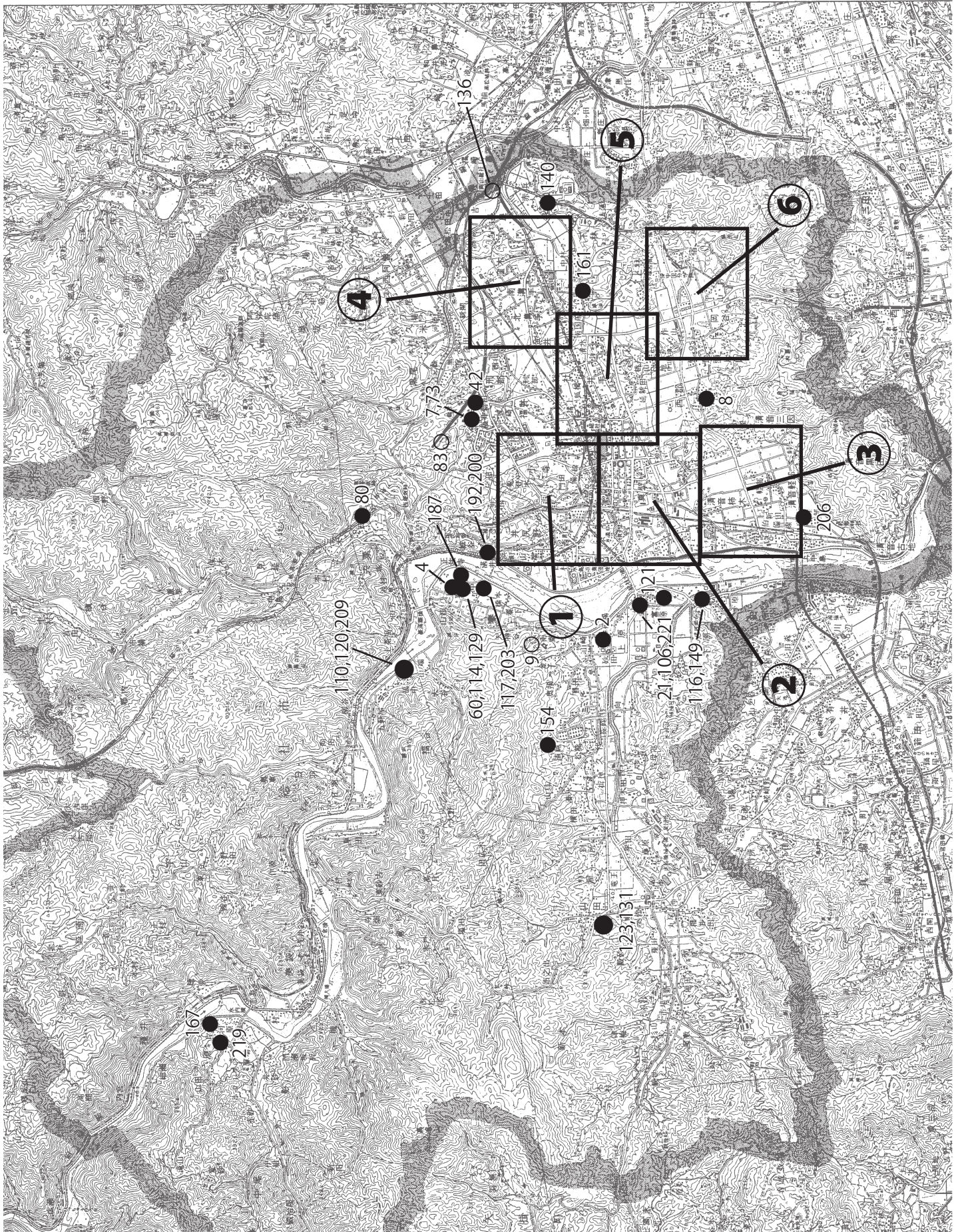
第3表 令和3年度 発掘調査の報告（92条）一覧

番号	受付日	主要用途	地番	対応	文書番号	遺跡名	備考
1	7月16日	学術研究	下林字鳶尾539-2, 540	学術調査	218号	鳶尾塚古墳	
2	1月19日	学術研究	下林字鳶尾539-2, 540	学術調査	583号	鳶尾塚古墳	

第4表 令和3年度 発掘調査一覧

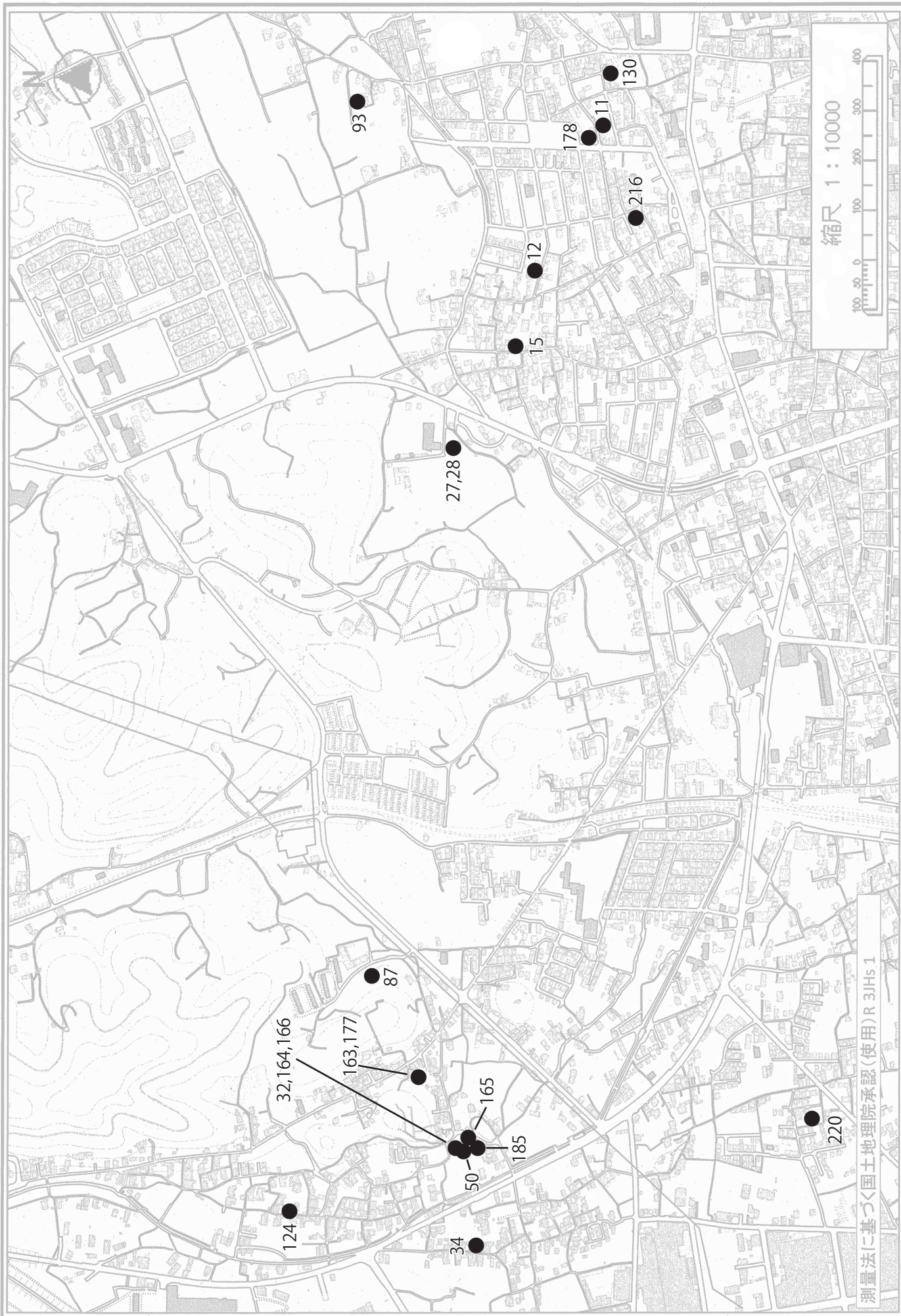
番号	遺跡名	所在地	調査契機	調査期間	担当者
1	荒神ヶ市遺跡	駅前二丁目16-101外	店舗建設	6月28日～8月31日	高橋・平井
2	宿小山古墳	宿156-1外	史跡整備	1月26日～3月31日	平井・高橋





第1図 調査位置図 (S=1/100,000)





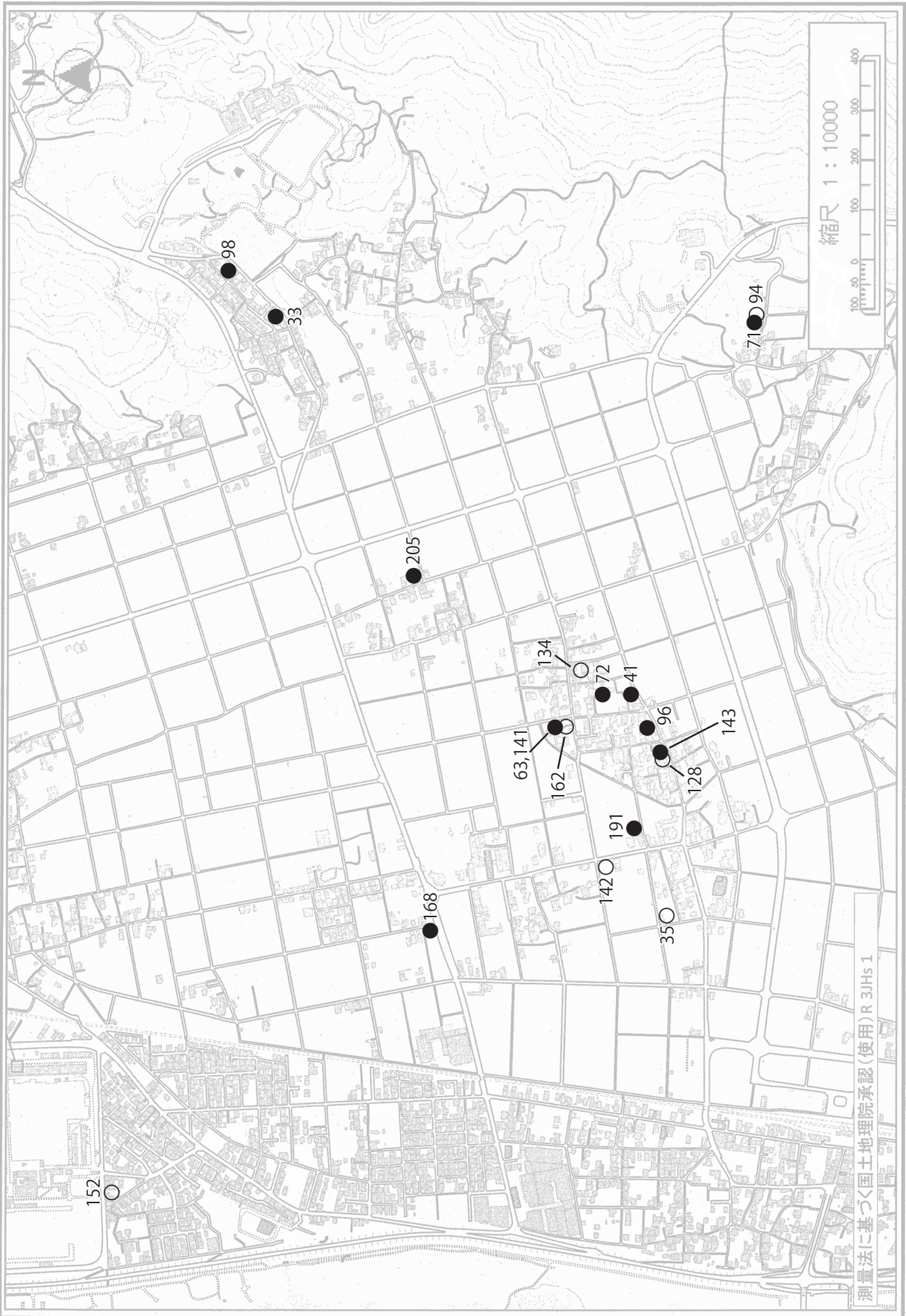
第2図 調査位置図<拡大①> (S=1/10,000)





第3図 調査位置図<拡大②> (S=1/10,000)

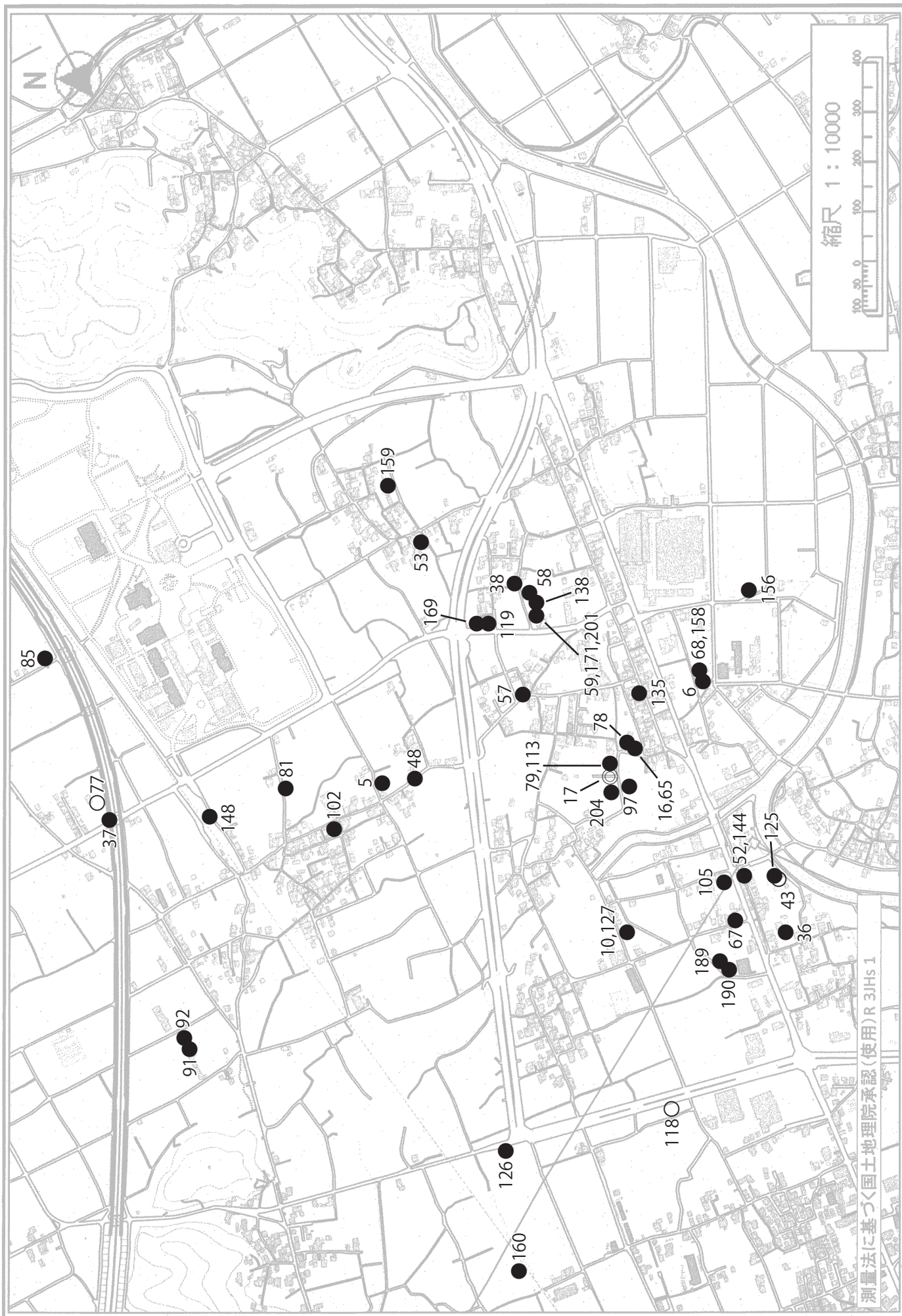




測量法に基づく国土地理院承認(使用)R 3JHs 1

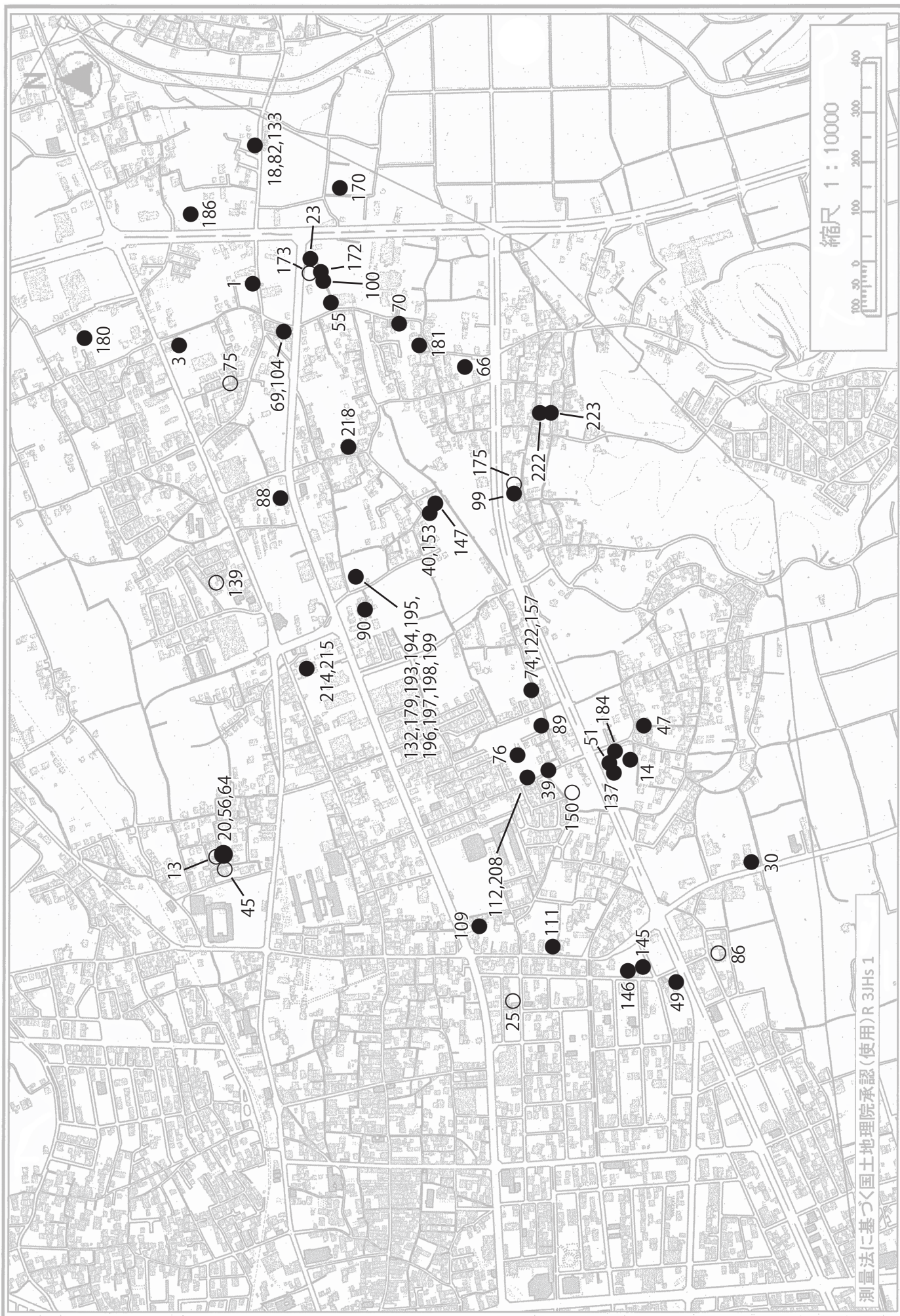
第4図 調査位置図<拡大③> (S=1/10,000)





第5図 調査位置図<拡大④> (S=1/10,000)





第6図 調査位置図<拡大⑤> (S=1/10,000)





測量法に基づく国土地理院承認(使用)R 3JHs 1

第7図 調査位置図<拡大⑥> (S=1/10,000)

第5表 令和3年度 埋蔵文化財事前調査一覧

番号	受付日	地番	対応	包蔵地	遺跡名
1	4月10日	溝口136-1	FAXによる確認依頼	×	—
2	4月13日	清音軽部424-1, 424-4, 424-5, 424-6, 424-7	開発行為許可申請	○	軽部遺跡
3	4月14日	長良950-10	開発行為許可申請	×	—
4	4月15日	南溝手325-8	開発行為許可申請	○	大文字遺跡
5	4月16日	井尻野2079-11	FAXによる確認依頼	×	—
6	4月19日	福井72-6, 72-7	開発行為許可申請	×	—
7	4月19日	上林308-3	開発行為許可申請	×	—
8	4月19日	福井72-4, 72-5	開発行為許可申請	×	—
9	4月19日	小寺127-1	FAXによる確認依頼	×	—
10	4月19日	上林308-4	開発行為許可申請	×	—
11	4月20日	上林114-10	開発行為許可申請	×	—
12	4月20日	井手1092-3, 1092-5	FAXによる確認依頼	○	井手村後遺跡
13	4月22日	中原806-1	FAXによる確認依頼	×	—
14	4月23日	岡谷1849-11	FAXによる確認依頼	○	名称未定遺跡
15	4月26日	清音軽部201-3	開発行為許可申請	○	軽部遺跡
16	4月30日	門田368-12	FAXによる確認依頼	×	—
17	5月10日	西郡670付近	窓口での確認依頼	○	名称未定遺跡
18	5月10日	井尻野1804付近	窓口での確認依頼	×	—
19	5月11日	金井戸344付近	窓口での確認依頼	○	金井戸天原遺跡
20	5月12日	井手512-5, 512-7	開発行為許可申請	×	—
21	5月13日	北溝手209-1	メールによる確認依頼	○	北溝手遺跡
22	5月13日	総社二丁目11	FAXによる確認依頼	×	—
23	5月14日	清音上中島204付近	窓口での確認依頼	×	—
24	5月17日	西阿曾189-1	窓口での確認依頼	×	—
25	5月17日	窪木1030-1, 1031-1, 1031-2	窓口での確認依頼	○	窪木遺跡
26	5月17日	三須1285-2	窓口での確認依頼	○	三須遺跡群
27	5月17日	福井93-17	窓口での確認依頼	○	宮後遺跡
28	5月19日	福井1165-2	メールによる確認依頼	○	泉団地遺跡群
29	5月19日	井手785-4	開発行為許可申請	×	—
30	5月19日	北溝手440-2, 440-5	開発行為許可申請	×	—
31	5月20日	南溝手444-6	開発行為許可申請	○	大文字遺跡
32	5月20日	井手513-4	開発行為許可申請	×	—
33	5月20日	南溝手496-6, 496-7	開発行為許可申請	×	—
34	5月20日	真壁421, 421-1	開発行為許可申請	×	—
35	5月20日	久米273-2, 273-3, 274-2, 276-5	開発行為許可申請	×	—
36	5月20日	上林1746-1	開発行為許可申請	×	—
37	5月21日	清音軽部229-1, 229-4	開発行為許可申請	○	軽部遺跡
38	5月25日	福井126-1, 126-4	開発行為許可申請	○	神明遺跡
39	5月26日	清音柿木612付近	窓口での確認依頼	×	—
40	5月26日	溝口47, 49-4, 49-5	開発行為許可申請	×	—
41	5月27日	上林281, 上林89	開発行為許可申請	×	—
42	5月28日	八代39-5	FAXによる確認依頼	×	—
43	5月31日	清音上中島165-8	FAXによる確認依頼	×	—

番号	受付日	地番	対応	包蔵地	遺跡名
44	6月1日	小寺83	FAXによる確認依頼	×	—
45	6月1日	三輪196-1	開発行為許可申請	×	—
46	6月2日	溝口81付近	窓口での確認依頼	×	—
47	6月5日	南溝手303-3, 303-4	開発行為許可申請	○	大文字遺跡
48	6月5日	金井戸206-1	開発行為許可申請	○	金井戸天原遺跡
49	6月5日	南溝手305-7, 305-8	開発行為許可申請	○	大文字遺跡
50	6月11日	宿566-6, 566-7	開発行為許可申請	○	宿寺山古墳
51	6月11日	上林115-1	開発行為許可申請	×	—
52	6月11日	久米308-6	開発行為許可申請	×	—
53	6月15日	金井戸344-12	開発行為許可申請	○	金井戸天原遺跡
54	6月15日	中央三丁目14-101	窓口での確認依頼	○	中村遺跡
55	6月16日	真壁172-1	開発行為許可申請	×	—
56	6月16日	西阿曾1362-2	FAXによる確認依頼	×	—
57	6月18日	井手424-7, 424-8	開発行為許可申請	○	井手村後遺跡
58	6月21日	清音軽部255	窓口での確認依頼	○	軽部遺跡
59	6月22日	総社1259-1	窓口での確認依頼	×	—
60	6月23日	清音上中島203-8	FAXによる確認依頼	×	—
61	6月23日	福井50-10	FAXによる確認依頼	○	神明遺跡
62	6月23日	久代4605	FAXによる確認依頼	×	—
63	6月25日	泉13-77	FAXによる確認依頼	○	泉団地遺跡群
64	6月25日	井尻野2079付近	窓口での確認依頼	○	井尻野古墳群
65	6月26日	総社1623-2	FAXによる確認依頼	×	—
66	6月26日	溝口162-6	FAXによる確認依頼	×	—
67	6月26日	総社三丁目1-24-8	FAXによる確認依頼	×	—
68	6月26日	下原1153-2, 1154-1	FAXによる確認依頼	×	—
69	6月26日	三輪170-2	FAXによる確認依頼	○	下三輪遺跡
70	6月29日	上林114-2	FAXによる確認依頼	×	—
71	6月29日	長良950-8	メールによる確認依頼	×	—
72	6月30日	西郡1013-2	FAXによる確認依頼	×	—
73	7月1日	総社1295-3	窓口での確認依頼	×	—
74	7月6日	溝口203-2, 204-1, 204-5	FAXによる確認依頼	×	—
75	7月9日	駅前二丁目33付近	窓口での確認依頼	×	—
76	7月9日	東阿曾1121, 1127, 1131, 1135, 1201	メールによる確認依頼	○	鳥越山城跡
77	7月15日	岡谷7付近	窓口での確認依頼	×	—
78	7月15日	井手113-1	協議	○	井手役所跡遺跡
79	7月15日	井手734	FAXによる確認依頼	○	井手村後遺跡
80	7月15日	清音柿木812-3	FAXによる確認依頼	×	—
81	7月15日	秦3347-2	FAXによる確認依頼	○	名称未定遺跡
82	7月16日	三須510-13, 三須699-2, 699-6	メールによる確認依頼	×	—
83	7月19日	三須1315-2, 1315-3	開発行為許可申請	○	三須遺跡群
84	7月19日	窪木882-7, 882-10	開発行為許可申請	○	窪木遺跡
85	7月19日	上林61-6, 61-7	開発行為許可申請	×	—
86	7月19日	窪木881-7, 881-8	開発行為許可申請	○	窪木遺跡

番号	受付日	地番	対応	包蔵地	遺跡名
87	7月20日	北溝手440-6	開発行為許可申請	×	—
88	7月20日	作原付近	窓口での確認依頼	×	—
89	7月30日	上林114-2	窓口での確認依頼	×	—
90	8月4日	宿1222-2	FAXによる確認依頼	×	—
91	8月6日	井手233-2, 184-5	窓口での確認依頼	×	—
92	8月17日	総社1167-1, 1167-7	開発行為許可申請	×	—
93	8月18日	井手513-2	開発行為許可申請	×	—
94	8月18日	北溝手28-5, 28-9	開発行為許可申請	○	服部遺跡
95	8月18日	窪木223-1	開発行為許可申請	×	—
96	8月19日	金井戸449-14	開発行為許可申請	○	井手見延遺跡
97	8月19日	北溝手28-7	開発行為許可申請	○	服部遺跡
98	8月19日	西郡507-4	開発行為許可申請	×	—
99	8月20日	岡谷727-4, 727-5	開発行為許可申請	×	—
100	8月23日	上林62-3, 62-13	開発行為許可申請	×	—
101	9月3日	清音三因998-27	開発行為許可申請	○	北山古墳群
102	9月3日	三須507-31	開発行為許可申請	×	—
103	9月3日	上林59-11, 59-12	開発行為許可申請	×	—
104	9月6日	清音軽部298-1, 302-1	FAXによる確認依頼	○	軽部遺跡
105	9月6日	南溝手428-12	開発行為許可申請	×	—
106	9月13日	富原886	FAXによる確認依頼	○	上原遺跡
107	9月14日	下倉6078	FAXによる確認依頼	×	—
108	9月14日	上林64-3	開発行為許可申請	×	—
109	9月16日	井手499-7, 512-7	FAXによる確認依頼	○	早溝遺跡
110	9月16日	中央一丁目4付近	FAXによる確認依頼	○	彼ノ城遺跡
111	9月16日	上林59-10	開発行為許可申請	×	—
112	9月16日	上林59-9	開発行為許可申請	×	—
113	9月22日	総社1749-1	FAXによる確認依頼	○	総社遺跡
114	9月22日	下原1153-2, 下原1154-1	開発行為許可申請	×	—
115	9月24日	金井戸345-8	FAXによる確認依頼	○	金井戸天原遺跡
116	9月27日	久米309-4	FAXによる確認依頼	×	—
117	10月1日	中央一丁目5付近	窓口での確認依頼	×	—
118	10月18日	溝口137-9	FAXによる確認依頼	×	—
119	10月26日	中央六丁目13付近	窓口での確認依頼	×	—
120	10月28日	門田1294付近	FAXによる確認依頼	×	—
121	10月29日	清音軽部298-1, 清音軽部302-1	開発行為許可申請	○	軽部遺跡
122	11月5日	南溝手305-9, 305-10	開発行為許可申請	○	大文字遺跡
123	11月7日	井尻野1376-5	窓口での確認依頼	×	—
124	11月9日	三須507-37	開発行為許可申請	×	—
125	11月11日	総社三丁目3-33	FAXによる確認依頼	×	—
126	11月15日	西郡390-1, 391-1, 392-1, 392-3	開発行為許可申請	×	—
127	11月19日	総社32-1	FAXによる確認依頼	×	—
128	11月19日	宿1693-7, 1693-8	開発行為許可申請	×	—
129	11月25日	北溝手391-8	FAXによる確認依頼	×	—
130	11月26日	小寺110付近	窓口での確認依頼	×	—



番号	受付日	地番	対応	包蔵地	遺跡名
131	12月7日	門田345-7	FAXによる確認依頼	×	—
132	12月11日	山田1946	窓口での確認依頼	×	—
133	12月13日	北溝手55付近	窓口での確認依頼	×	—
134	12月16日	長良546-1	開発行為許可申請	×	—
135	12月16日	久米329-6	開発行為許可申請	×	—
136	12月20日	西阿曾189-6	開発行為許可申請	×	—
137	12月22日	井尻野786-8	FAXによる確認依頼	×	—
138	12月23日	総社1260	FAXによる確認依頼	×	—
139	1月7日	岡谷708-1	開発行為許可申請	×	—
140	1月11日	小寺120-4	FAXによる確認依頼	×	—
141	1月17日	北溝手428-13, 432-5	開発行為許可申請	×	—
142	1月18日	新本8528-1	開発行為許可申請	×	—
143	1月18日	新本859-1	開発行為許可申請	×	—
144	1月18日	三須1388-20	開発行為許可申請	×	—
145	1月19日	地頭片山174-3	開発行為許可申請	×	—
146	1月20日	久代3345-3	開発行為許可申請	○	名称未定遺跡
147	1月25日	総社1623-2	開発行為許可申請	×	—
148	1月27日	秦383-3	開発行為許可申請	×	—
149	1月31日	西阿曾194-6	FAXによる確認依頼	×	—
150	2月3日	福井1563-2	FAXによる確認依頼	×	—
151	2月7日	山田2164	FAXによる確認依頼	×	—
152	2月7日	上林318-3, 318-4	開発行為許可申請	×	—
153	2月14日	三輪1234-2, 1234-3, 1234-4, 1234-6, 1234-7	開発行為許可申請	×	—
154	2月15日	総社二丁目13付近	窓口での確認依頼	×	—
155	2月15日	上林70-4, 70-6	開発行為許可申請	×	—
156	2月18日	福井511-1	開発行為許可申請	×	—
157	3月1日	下林266-1	FAXによる確認依頼	○	中林遺跡
158	3月2日	長良680	FAXによる確認依頼	×	—
159	3月2日	清音軽部1512-1, 1514-5	FAXによる確認依頼	×	—
160	3月4日	門田267付近	FAXによる確認依頼	×	—
161	3月8日	清音三因104-1, 104-3, 105, 108-3	FAXによる確認依頼	○	名称未定遺跡
162	3月10日	南溝手428-11	開発行為許可申請	×	—
163	3月10日	宿1346-11, 1346-12	開発行為許可申請	×	—
164	3月17日	小寺1317-11, 1317-12, 1317-13	開発行為許可申請	×	—
165	3月17日	清音柿木458-26	開発行為許可申請	×	—
166	3月17日	富原888-7	開発行為許可申請	×	上原遺跡
167	3月18日	東阿曾1760-1	開発行為許可申請	×	—
168	3月22日	宿320付近	窓口での確認依頼	×	—
169	3月24日	宿816付近	窓口での確認依頼	×	—
170	3月28日	日羽436-33	FAXによる確認依頼	×	—

## 〔普及啓発活動〕

令和3（2021）年度では、埋蔵文化財関連図書として令和2（2020）年度の埋蔵文化財行政の概要をまとめた『総社市埋蔵文化財調査年報』31を刊行した。

鬼ノ城及び鬼城山ビジターセンター来訪者は、49,356人である。令和元年度に6万人をはるかに上回る来訪者があり、その時期に比べると減少したものの例年に近い多くの方々が訪れた（第6表）。

埋蔵文化財学習の館の入館者は353人であり、令和2年度とほぼ同数である（第7表）。内訳としては、約9割が大人によって占められている。また半数以上が市外・県外の方々であり（第8表）、古代吉備の中心である総社市内出土の文化財に対する関心の高さが伺える。

職員と会計年度任用職員による普及啓発は、当初26件を予定していた。しかし新型コロナウイルス拡散防止の観点から中止になった講座等も多い。内訳は第11表のとおりである。（岩橋）

第6表 鬼ノ城来訪者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計（人）
R元年度	6,192	8,278	3,493	3,083	4,491	4,197	5,011	6,275	5,563	6,233	5,257	8,180	66,253
R2年度	5,437	2,743	3,569	3,485	4,594	5,690	5,851	8,031	3,918	4,227	5,628	5,454	58,627
R3年度	4,371	3,812	821	3,773	3,183	1,061	6,070	7,170	3,660	5,433	4,085	5,917	49,356

第7表 埋蔵文化財学習の館来館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計（人）
R元年度	15	169	57	67	24	35	55	27	17	67	13	80	626
R2年度	13	14	32	34	41	38	27	45	43	19	55	35	396
R3年度	69	13	10	12	25	6	32	51	43	19	20	53	353

第8表 令和3年度 埋蔵文化財学習の館来館者内訳

	大人	小人	市内	市外	県外	国外	未記帳	合計
R3年度	327	26	115	154	82	0	2	353

第9表 令和3年度 収蔵資料の貸出一覧

番号	日付	申請元	遺跡名	遺物	備考
1	1月20日 (～2023年3月20日)	岡山県古代吉備文化財センター	こうもり塚古墳	須恵器など	企画展の展示
2	4月26日 (～4月28日)	岡山県古代吉備文化財センター	こうもり塚古墳	陶棺 須恵器 鉄滓など	企画展の展示
3	9月10日 (～11月18日)	鳥根県立古代出雲歴史博物館	南溝手遺跡 上原遺跡	玉作り関連遺物 人面土製品	企画展の展示
4	10月18日 (～2022年5月31日)	岡山県古代吉備文化財センター	窪木薬師遺跡 樋本遺跡	鍛冶関連遺物	企画展の展示

第10表 令和3年度 資料調査一覧

日付	調査遺物	調査者
2021年4月7日	こうもり塚古墳出土遺物	岡山県古代吉備文化財センター
4月14日	栢寺廃寺出土瓦	個人
6月23日	製鉄関連遺物	個人
7月16日	栢寺廃寺出土瓦	個人
9月22日	窪木薬師遺跡・樋本遺跡出土鍛冶関連遺物	岡山県古代吉備文化財センター
10月8日	弥生～古墳時代の集落遺跡出土紡錘車	個人
10月11日	一丁坑古墳群出土埴輪・須恵器	岡山県古代吉備文化財センター
11月2日	館蔵特殊器台	個人
11月17日	吉備考古館からの受け入れ五輪塔	個人
11月22日	製鉄関連遺物	個人
11月26日	隋庵古墳出土鉄矛・石突・鉄剣	個人
12月1日	服部遺跡出土縄文土器	個人
12月13日	千引カナクロ谷製鉄遺跡出土鉄鉱石	個人
12月14日	窪木宮後遺跡出土合子・勾玉	個人
12月24日	小山ヶ谷古墳出土埴輪棺、作山古墳出土埴輪	個人
2022年2月2日	展示品の資料調査	鳥根県立古代出雲歴史博物館
2月7日	出土鉄器（鏝・釘）	個人
3月10日	こうもり塚古墳出土須恵器	岡山県古代吉備文化財センター

※ 資料調査は埋蔵文化財学習の館で対応

第11表 令和3年度 普及啓発一覧

番号	実施日	依 頼 元	担 当	内 容	人数
1	4月15日	倉敷ロータリークラブ	平井	講演「古代吉備の成立と繁栄」	70人
2	4月22日	ふたば会	平井	埋蔵文化財学習の館・栢寺廃寺見学	25人
3	5月18日	中央公民館 福寿学級		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
4	5月26日	中央公民館 福寿学級		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
5	6月10日	岡山市上南公民館		講座「弥生時代の暮らし」	中止
6	6月16日	岡山市御南中学校		埋蔵文化財学習の館・栢寺廃寺の案内	中止
7	7月2日	岡山市大元公民館	平井	講座「古代吉備の成立と繁栄」	35人
8	8月8日	備前市教育委員会	高橋 平井	トンボ玉作りワークショップ	20人
9	8月22日	備前市教育委員会	平井	鏡作りワークショップ	20人
10	10月19日	クラブツーリズム		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
11	10月28日	クラブツーリズム		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
12	11月9日	クラブツーリズム		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
13	11月11日	岡山市上南公民館	平井	講座「弥生時代の暮らし」	20人
14	11月14日	総社市西公民館	平井	清音と三輪丘陵の古墳 見学	10人
15	11月16日	総社市東公民館	平井	講座「県内の古墳群から見えてくるもの」	20人
16	11月17日	クラブツーリズム		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
17	11月19日	総社市図書館	平井	緑山古墳群・鷹尾塚古墳 見学	16名
18	12月9日	クラブツーリズム		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
19	12月10日	岡山市 操南公民館	平井	講座「謎の城 鬼ノ城」	35人
20	12月11日	赤磐市教育委員会	高橋	玉作り教室	20人
21	12月14日	総社市服部幼稚園	平井	埋蔵文化財学習の館 見学	園児13人 引率2人
20	12月15日	クラブツーリズム		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
21	2月6日	備前市教育委員会	平井	鏡のワークショップ	20人
22	2月9日	総社市池田小学校		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
23	2月17日	広島市立美鈴が丘高等学校		埋蔵文化財学習の館 見学	中止
24	3月5日	総社商工会議所	平井	講座と見学「造山・作山古墳」	20人
25	3月6日	岡山県立博物館 友の会		埋蔵文化財学習の館・栢寺廃寺案内	中止
26	3月16日	総社観光大学	平井	講義「古代吉備の成立と繁栄」	22人



## 2. 立会・試掘・確認調査の概要



# 1. 医療施設建設工事に伴う確認調査

遺跡名 総社遺跡  
所在地 総社市金井戸126番1 外  
調査期間 2021年 4月21日～30日  
調査面積 約11㎡

## 調査概要

総社遺跡の分布範囲内で、病院棟、デイケア棟、薬局棟をはじめとする医療施設の開発が計画された。計画地は、総社遺跡が分布する範囲の西部側に位置し、南西に金井戸新田遺跡、南に井手天原遺跡・金井戸天原遺跡が旧河道を挟んでそれぞれ隣接している。

開発面積は約24,000㎡で、市道や用水路が廃止される大規模開発事業である。そこで、既存の調査を加味しつつ、事前の確認調査を実施した。

既存調査は、敷地東側に面する国道429号線の調査例があり、また、金井戸新田遺跡・井手天原遺跡でも発掘・確認・立会調査例がある。

国道429号線の発掘調査は計画地の東側に接しており、金井戸調査区の4～6区に該当する。この区間で確認された遺構は溝のみであり、遺構の存在しない区間も広く認められる。北側の7区では多くの溝群が存在しており、微高地端と考えられ、南側の2区までの間には低位部と河道が存在している。旧河道は調査地の南～西側を流れていたと推定される。現況は、すべて水田である。

金井戸天原遺跡の発掘調査でも河道や砂礫層が確認されている。この砂礫層については河道の右岸に広く形成されていることが確認・立会調査で判明している。

これらの調査状況より判断して、計画地は広く低位部に該当するものと推測し、確認調査は建物範囲以外の駐車場ほかについても状況把握するため、トレンチを設定した。トレンチは14か所に設定した。早急に確認調査を進めるため、トレンチの設定位置をあらかじめ決定して地権者の承諾を得たことから調査状況の進捗による追加トレンチを設定しづらい危惧があったが、当初予定の10か所より4か所増やして終了した。

T-1は、遺構検出を目的として層位的調査としたため、2m×1.5mの範囲で設定した。

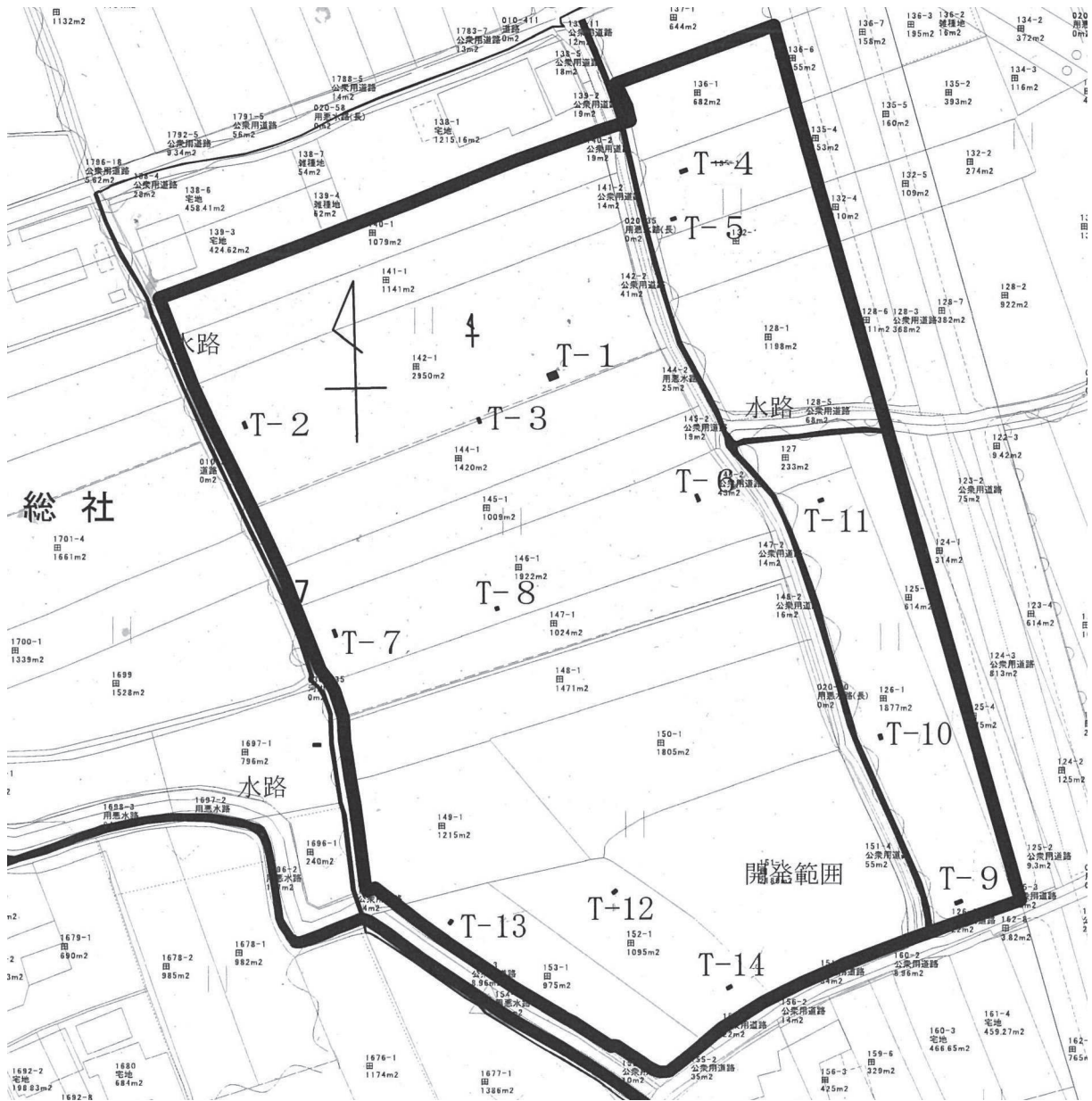
耕作土を除去した面で、基本2層を畝として、1層あるいは1'層を埋土とする小溝群を検出した。東西方向に並列しているものの、複数の埋土で、しかも明瞭になっておらず、継続して小溝が掘り込まれた結果と考えている。

つづいて、1・1'・2・2'層を除去し、3層の上面を第2検出面として遺構検出を行った。その結果、遺構は検出されなかった。

さらに、北端を掘り下げ、第2検出面以下の層位を確認した。4～7層であり、5層もしくは7層



第8図 調査地位置図 (S=1/10,000)



第9図 トレンチ配置図 (S=1/1,500)

を基盤層と考えている。土層断面の観察から遺構は検出されなかった。また、トレンチ底面より-20cmで硬い層となった。

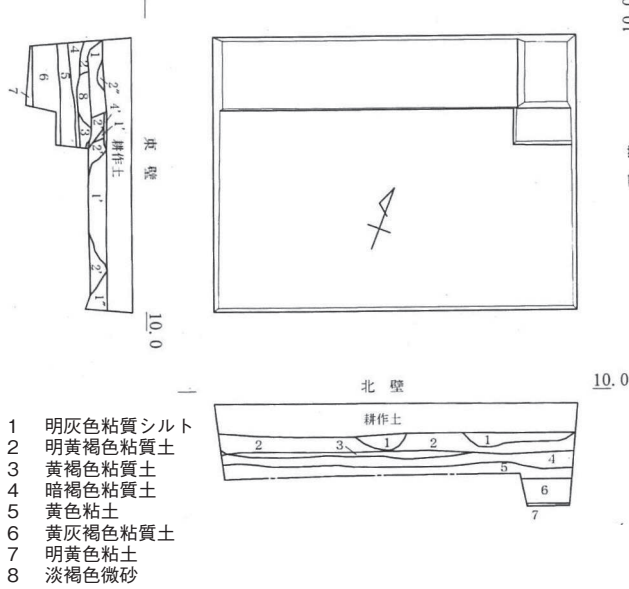
遺物は、3・4層より備前焼・土師器・須恵器がわずかに出土したのみである。

T-2は、T-1と同じ水田面の西端に設定した。T-1で明瞭な遺構が検出されなかったことから、規模を一辺1.5m×0.6mとした。

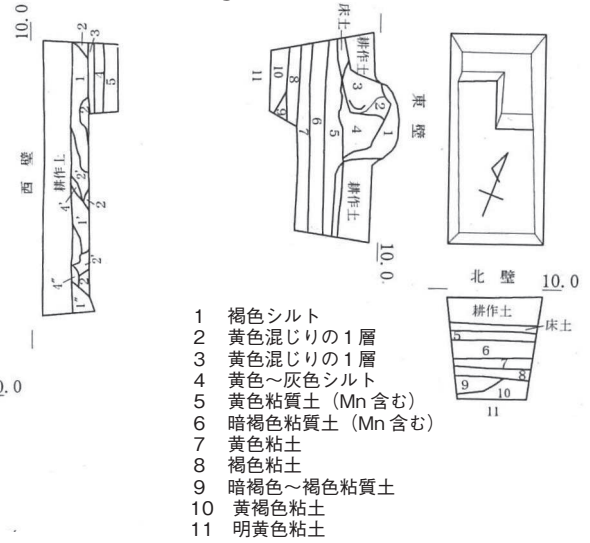
1～8層を確認した。7層の黄色粘土が基盤層で、南西に向かって下降している。2・3・5・6層も同様に下降しており、河道に向かう傾斜地形が長期にわたって存在していたと推定される。4層の微砂は洪水砂と思われる。

遺構・遺物ともに確認できなかった。

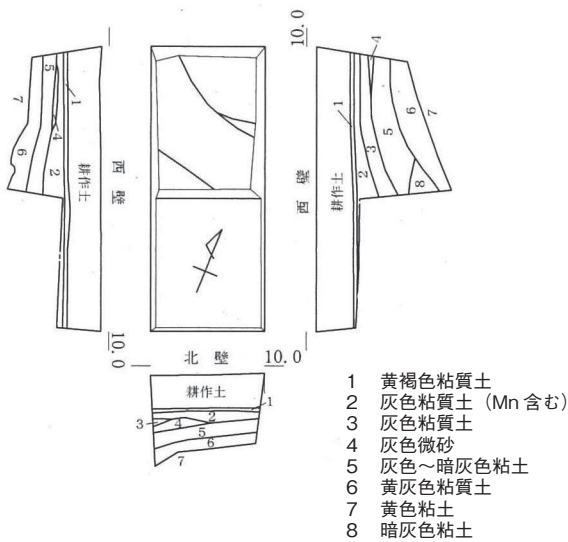
T-1



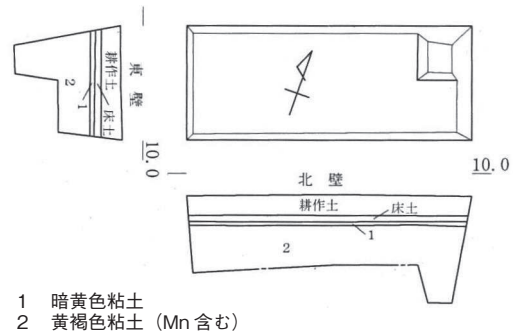
T-3



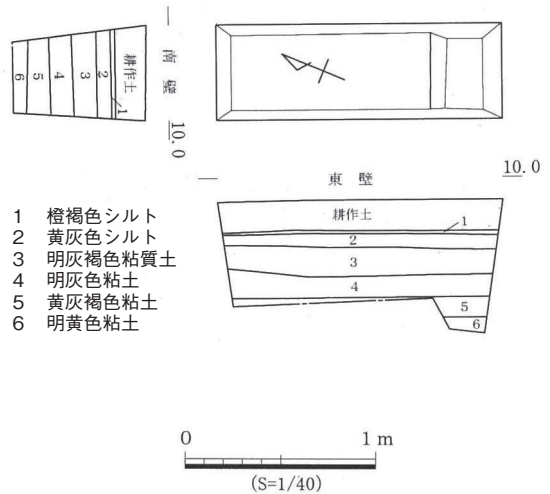
T-2



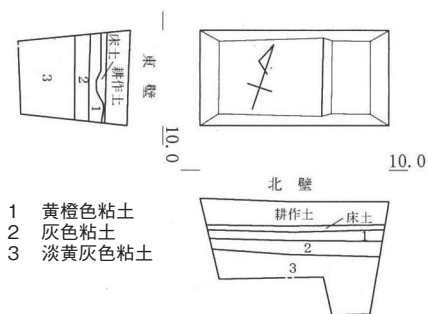
T-4



T-6



T-5



第10図 トレンチ平・断面図①<T-1～T-6> (S=1/40)



T-3は、現況の水田区画が長地型を呈しており、現況の畦畔以下に旧畦畔が存在するかを確認するため、畦畔を削り取っていた場所に設定した。

T-2についても、西側の水田区画畦畔を延長した位置に設定しているが、旧畦畔の存在は確認できなかった。

現畦畔は、3層にあぜ波シートが含まれていることや現畦畔下に床土が存在していないことから4層の形成は現水田の耕作土・床土にともなうものと判断し、区画の統合がなされたと推定される。

5・6層にはマンガンが含まれていることから、旧水田の耕作土と推測した。また、7層を基盤層と考えているが、8～10層も堆積層であり、11層は7層に酷似している。底面となる11層以下では、-1m以上の軟質土層になることから、低位部もしくは旧河道が存在するものと考えている。

遺構・遺物ともに確認できなかった。

T-4は、敷地の北東部に1.5m×0.6mで設定した。微高地となる7区に最も近い地点である。

耕土・床土の下に、2層の土層を確認した。1層は水田耕作にともなって、赤橙色に変色した2層である。2層は安定した土層で、深掘りの底面より-0.4mで硬い土層となった。

遺構・遺物ともに確認できなかったが、2層が微高地の基盤層であり、遺構の存在が予測できる。

T-5は、T-4と同じ水田区画で、2層の広がりを確認するために、南側へ設定した。1m×0.5mの規模である。耕土・床土の下に、3層の土層を確認した。1層の上面には赤橙色が認められる。2層は灰色粘土で、上端にマンガンが沈殿する。3層は淡黄灰色粘土で、マンガンの沈殿のほか、縦状の鉄分沈着が認められる。底面より-0.8m以上が軟質土層となる。T-4の2層とする基盤層は確認できず、微高地の南端はT-5の北側にあたり、南側は低位部となる。また、T-3と状況が似ているものの、T-5とT-3の間にはT-1が位置しており、地形が一度高くなるようである。

遺構・遺物、ともに確認できなかった。

T-6は、開発範囲の中央部に位置し、1.5m×0.5mの規模である。耕作土の下に、6層の土層を確認した。耕作にともない赤橙色となった1層、黄色と灰色が互層となった旧水田層の2層、マンガンをわずかに沈殿し、包含層とするには土色の薄い3層とマンガンを含まず粘土の4層、そして鉄分が縦筋に沈殿する5層、基盤層に近い明黄色粘土の6層である。底面より0.7m以上が軟質土層となり、5層以下が低位部の沼地状であったと推測している。遺構は検出されなかった。

遺物は、2層中よりタタキ痕のある須恵器片が1点出土している。

T-7は、T-6の水田区画の西端に設定した。1.5m×0.5mの規模である。耕作土・床土の下に、6層の土層を確認した。赤褐色までには変色していない1層、黄色と灰色の互層とならずに混在している2層、マンガンの沈殿が認められる3層、砂を多く含む4層、灰褐色と黄色の混在する5層、基盤層に近い6層である。底面以下は-1m以上がかなり軟質な土層であった。4層は東に向かって存在し、洪水砂に近い土質をもつ。6層の上面が東壁でわずかに畦畔状に盛り上がり、5層が旧耕作土となる。遺構は検出されなかった。遺物は、1・2層より摩滅した土器片が出土している。

T-8は、T-6と7の中間に設定した。一辺0.6mの規模である。耕作土の下に、4層の土層を確認した。T-6と層厚に違いはあるが、土質・土色は酷似している。底面より-0.6mまで軟質土層である。遺構は検出されず、遺物は、2・3層より土師器・土師質土器が3点出土しているが、いずれも細片である。

T-9は、開発範囲の南東隅に設定した。1.5m×0.6mの規模である。耕作土の下に、5層の土層を

確認した。1層の上面は橙褐色に変色している。また、灰色土と黄色土の互層となる。2層も中位に黄色層が認められる。3層には縦筋の鉄分沈殿が認められる。4層と5層は橙色ブロックを含む。

遺構は検出されなかった。

遺物は、1・2層より中世土器が出土している。

T-10は、T-9の北側に設定した。1.0m×0.6mの規模である。耕作土の下に、5層の土層を確認した。1層は橙色の変色層で分層した。2層は灰色土と黄色土の互層。3層は上位のマンガンを含むa層とやや黄色のb層で細分した。4・5層には縦筋状やブロック状の鉄分沈殿が認められる。底面から-0.6mまで軟質土層であるが、T-9と同様にやや硬くなる状況で、T-3・7ほどは軟らかくなかった。

遺構・遺物ともに確認できなかった。

T-11は、T-9の北側に設定した。1.0m×0.5mの規模である。耕作土の下に、6層の土層を確認した。1層は橙色の変色層。2層は黄色と灰色の互層で、上面にマンガンの沈殿が認められる。3層は遺物包含層的な堆積層であるが、土色は濃くない。4層には縦筋状の鉄分が沈着する。5層は黄色と灰色土のブロックによる堆積層、6層は鉄分のブロック状を含む堆積層で、底面より-0.7mまで軟質層である。遺構は検出されなかった。

遺物は、2層より中世土器と陶器が出土している。

T-12は、開発範囲の南西隅に設定した。1.0m×0.5mの規模である。T-12~14の水田区画は西側の水路（河道）に面している。北側の1区画とともに、北~東側の水田区画より一段低い地形で、段丘状を呈している。河道の氾濫原区域と推測される。耕作土の下に、4層の土層を確認した。1層は橙色の変色層、2層は黄色と灰色の互層、3層は黄色と灰色が混在する。4層には縦筋状の鉄分付着が認められる。底面より-0.8mでやや硬くなる。遺構は検出されなかった。

遺物は、2・3層より須恵質土器・土師器が出土している。

T-13は、T-12の西側、最も水路（河道）に接近した位置に設定した。0.9m×0.5mの規模である。耕作土の下に、3層の土層を確認したほか、地下げで残された床土が認められる。

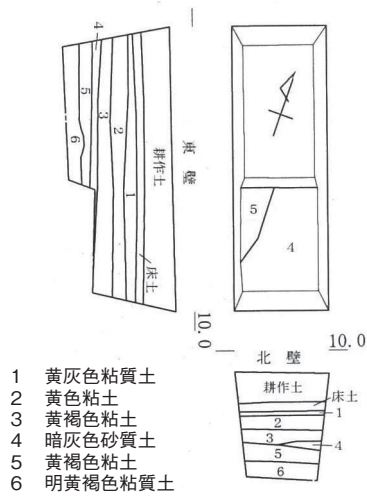
1層は黄色土と灰色土が互層となる。2層には縦筋状の鉄分付着が認められる。3層は基盤に酷似した黄色粘土である。底面以下の堆積状況については確認を行わなかったが、T-14と同様に、軟質土層と推測される。遺構は検出されなかった。

遺物は、床土より近世陶磁器、1層より陶器・土師器が出土している。

T-14は、T-12の南側、最も南端でトレンチを設定した。1.0m×0.5mの規模である。耕作土の下に、5層の土層を確認した。前日の雨で滞水が生じたが、湧水はまったく認められなかった。1層は黄灰色で、橙色の変色は認められない。2層は橙灰色土で鉄分の沈殿が認められる。3層は包含層的な堆積土で、炭粒の散布が認められ、縦筋状の鉄分付着がある。4層も2層同様に、鉄分の沈殿が認められる。5層は微砂~シルトで底面より-1mまで軟質の砂が確認される。遺構は検出されなかった。

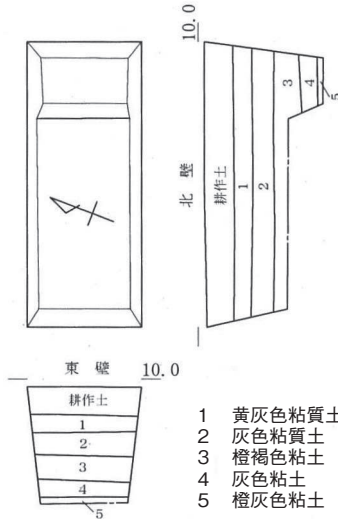
遺物は、1・2層より鉄分の付着した土師質土器、鉄片が出土している。

T-7



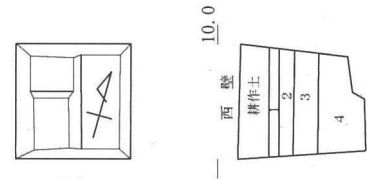
- 1 黄灰色粘質土
- 2 黄色粘土
- 3 黄褐色粘土
- 4 暗灰色砂質土
- 5 黄褐色粘土
- 6 明黄褐色粘質土

T-9



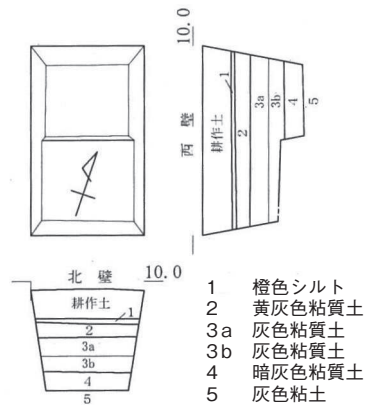
- 1 黄灰色粘質土
- 2 灰色粘質土
- 3 橙褐色粘土
- 4 灰色粘土
- 5 橙灰色粘土

T-8



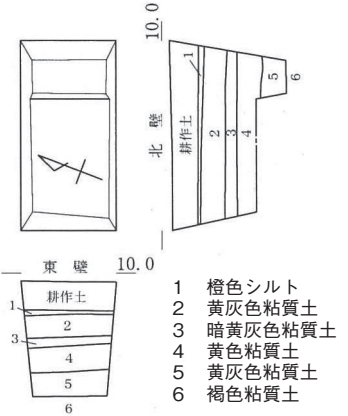
- 1 黄橙灰色粘質土
- 2 淡黄灰色粘質土
- 3 明灰色粘質土
- 4 黄灰色粘土

T-10



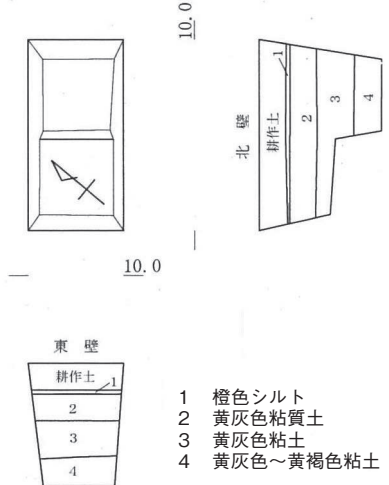
- 1 橙色シルト
- 2 黄灰色粘質土
- 3a 灰色粘質土
- 3b 灰色粘質土
- 4 暗灰色粘質土
- 5 灰色粘土

T-11



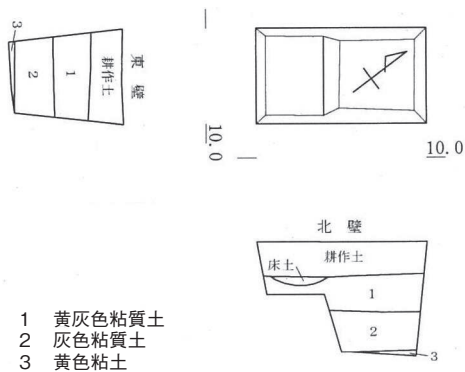
- 1 橙色シルト
- 2 黄灰色粘質土
- 3 暗黄灰色粘質土
- 4 黄色粘質土
- 5 黄灰色粘質土
- 6 褐色粘質土

T-12



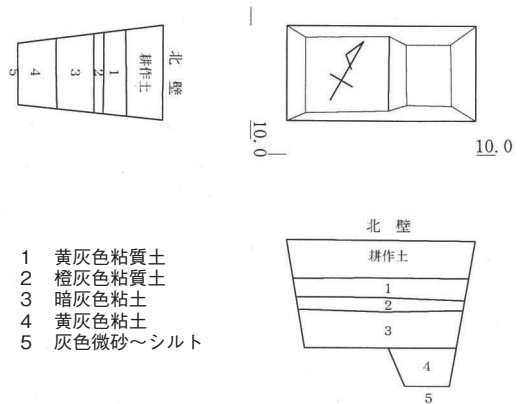
- 1 橙色シルト
- 2 黄灰色粘質土
- 3 黄灰色粘土
- 4 黄灰色~黄褐色粘土

T-13

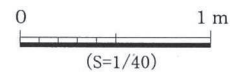


- 1 黄灰色粘質土
- 2 灰色粘質土
- 3 黄色粘土

T-14



- 1 黄灰色粘質土
- 2 橙灰色粘質土
- 3 暗灰色粘土
- 4 黄灰色粘土
- 5 灰色微砂~シルト



第11図 トレンチ平・断面図②< T-7 ~ T-14 > (S=1/40)



## まとめ

トレンチ調査の結果、T-1で小溝群を検出した以外に明瞭な遺構は確認できなかった。各トレンチの土層観察においても、T-4で微高地と推定される土層が確認できた以外は、低位部の埋没過程における土層堆積であると判断している。1～3層とした橙色への変色層や、灰色土と黄色土の互層による堆積土の形成は、水田耕作によるものであり、土色や出土遺物より中世以降の耕作土層と判断した。これ以下の土層についても、包含層的な堆積層を認めているものの、遺物の出土量から集落に近接する状況にはないと判断した。トレンチの底面以下の状況も、T-3・5・7・14が非常に軟質で、T-6・8・12がそれに続く。また、T-2は南西に向かって土層が下がっており、西側に用排水路が位置していることから小河道が存在すると思われる。

同様に、遺物においても多くのトレンチで無遺物あるいはわずかの出土量しか認められない。しかも、小片で、摩滅あるいは鉄分の付着するものもある。時期的には古墳時代から古代の遺物もあるが、中世土器から近世陶磁器が多い。

これらの総合的判断から総社遺跡の集落域分布範囲はT-5の北東側が微高地の端と考え、これより南西は河道の氾濫原や低位部であったと判断した。ただし、水田耕作の生産遺跡として、水田畦畔や用排水路としての溝の存在、あるいは条理的遺構に関わる遺構が存在する可能性が想定される。小規模なトレンチ調査であったが、T-2・3において旧畦畔は検出できず、床土が存在しないトレンチがあることから、水田区画の統合や地下げが行われているものと推測した。 (前角)

## 2. 個人住宅擁壁建設工事に伴う立会調査

所在地 総社市南溝手268地先

調査日 2021年5月6日

調査面積 約10㎡

### 調査概要

今回の立会調査は、当該地に個人住宅を建設するための擁壁建設工事に伴って実施した。予定地の南北には南溝手遺跡と大文字遺跡が存在している。南溝手遺跡は、1993年度に開校された岡山県立大学建設に伴う確認調査によって発見され、縄文時代後期から古代・中世までの長期間にわたる遺構の存続が確認されている<sup>(註1)</sup>。また大文字遺跡(栢寺廃寺)は、市道拡幅工事に伴う確認調査に伴って調査されており、7世紀後半の瓦廃棄土壌や8世紀中葉以降の区画溝・鍛冶に伴うと考えられる製炭窯などが検出されている<sup>(註2)</sup>。

調査地の基本的な層序は、水田耕作土の直下に中・近世の地上げ土と推定される客土層があり、その下層が基盤層と考えられる灰褐色土となっている。この層を切り込んで溝か住居址と考えられる遺構が認められた。これらのことから、調査地は微高地上に位置していると判断された。

以上の調査結果から、調査地は南溝手遺跡内の安定した微高地上に位置していると推定され、南溝手遺跡と大文字遺跡は間断の無い同一の遺跡である可能性が考えられる。(高橋)

(註1)「南溝手遺跡1」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』100 1995

「南溝手遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』107 1996

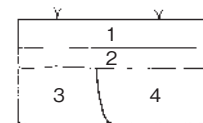
(註2)「大文字遺跡(栢寺廃寺)」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』20 2009



第1図版 調査地全景



第2図版 掘削状況



- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色土
- 3 灰褐色土
- 4 暗灰(黒)色土(住居址埋土)

第13図 土層柱状図 (S=1/40)



第12図 調査地位置図 (S=1/5,000)

### 3. 総社市役所新庁舎建設に伴う試掘調査

調査地 総社市中央1-1-1

調査日 2021年5月25日

調査面積 約4㎡

#### 調査概要

総社市役所は、河川作用によって形成された微高地に南接して建設されている。今回、総社市役所の新庁舎建設に伴って試掘調査を実施した。現在の市役所敷地は、ほぼ全面アスファルト舗装されているため、市庁舎の南側に残る植え込みの緑地に重機を使用して2本のトレンチを設定した。

掘削した2本のトレンチの基本的な層序は、真砂土客土層の下に円礫と粘土質の混和層や改良土層など約2mの客土層があり、この客土層にはT-1で煉瓦や現代瓦の破片、粉ミルク缶の破片などが混入しており、T-2では上層約半分がセメント混じりの改良土となっていた。その下の最下層では低湿地と考えられる灰褐色土層が堆積していた。

以上の結果から、総社市新庁舎建設予定地は低位部に位置していると推定され、現在の地盤は市庁舎を建設する際に造成が行われていたと考えられた。遺構・遺物は確認できなかった。

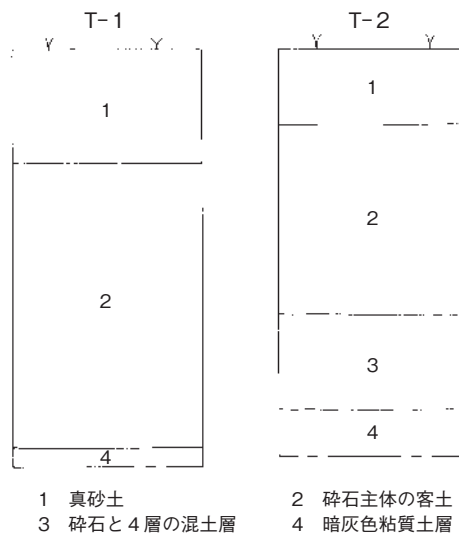
(高橋)



第3図版 調査地全景



第4図版 T-1 土層断面



第15図 土層柱状図 (S=1/40)



第14図 調査地位置図 (S=1/5,000)



## 4. 分譲住宅開発工事に伴う確認調査

遺跡名 井手村後遺跡

所在地 総社市井手字西ノ条669番1 外

調査期間 2021年12月1日～12月3日

調査面積 約5㎡

### 調査概要

井手村後遺跡の分布範囲内で、7軒の分譲地開発が計画された。井手村後遺跡は、弥生時代の集落となっているが、これまでの立会調査等より大規模な集落遺跡は確認できず、範囲内に点在した分布状況にあると推測している。

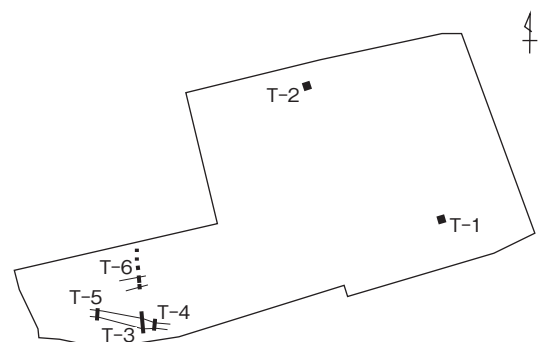
既存の調査は、調査地の北西に接する清水角遺跡の立会調査で中世の溝・土壇が、南東約120m地点の立会調査で弥生時代の竪穴住居や柱穴が確認され、さらに西側の遺跡西端では道路新設による発掘調査を実施し、竪穴住居や土壇、溝などを確認しているが概要報告のため、その詳細は不明である。

開発計画は、2区画の水田範囲内に開発道路を設置して7区画の分譲地とするものである。西側の市道からは-30cm低い地形となっており、造成計画高は+0.2m～0.35mとなることから、設置する擁壁や可変側溝の掘削は深くない。しかし、開発規模が1,500㎡を越えることから、計画内容別でなく、全体の状況を視野に、確認調査を実施することとして、周辺の状況より遺構密度が少ないと判断したことから人力による調査を実施した。

T-1は、南東隅に設定した。一辺1mで、北側半分を深掘りし、耕作土の下に2層の土層を確認した。1層の上面は赤褐色に、土層中にもマンガンや鉄分の沈殿が認められ、2層にはマンガンが認められなかった。底面より-0.8mで礫となり、その間は軟質で砂系の土層と判断した。



第16図 調査地位置図 (S=1/5,000)



第17図 トレンチ配置図 (S=1/1,000)

**T-2**は、北東に設置した。耕作土の下に3層の土層を確認した。1層はT-1の1層と比べて橙褐色が多くなり、土質もシルトになった。2層は存在せず、3層の円礫の混じる灰色系になり、底面は4層の砂礫となった。T-1の礫とは1m近い高低差を測る。遺物は出土していない。T-1と2の結果より、北側に礫層の高まりが存在することがわかった。南側に向かって下降し、砂系の土層が堆積する。

治水地形分類図によると調査地の南約300mで明瞭な旧河道が、調査地に重なって北側に不明瞭な旧河道が想定されており、T-1とT-2の違いがこの不明瞭な旧河道に該当するものと考えたいが、このほかにも推定旧河道があるなど複雑な様相である。しかし、いずれも不明瞭な旧河道であることから、ある段階で埋没し、遺跡が形成されるようである。1層中に中世土器が含まれることから、1層の形成が中世以後であり、T-1の2層とT-2の3層の関係が不明で、土器も出土していないことから判断できないが、古代までさかのぼる可能性は低いのではないだろうか。

つづいて、**T-3**を西部に設定した。幅0.35m、長さ3mの規模である。細長く、南北に設定したのは、T-3の南側には石鎚神社が鎮座しており、断面図にみるように水田面より+0.4m高くなり、さらに本殿・拝殿の北から西側には高さ1mを越える盛土状高まりが残されていることから判断したものである。先の西側での発掘調査によって形象埴輪を含む埴輪群が出土しており、総社平野中央部に削りとられた古墳が存在していた可能性もあることから、遺構の性格不明という調査結果は残念であるが、この盛土状高まりを古墳と考え、拝殿の設置において高まりを窪むように削りとしたとするならば、高まりの周囲に周溝が存在している可能性が高いと想定し、細長いトレンチを設定したものである。

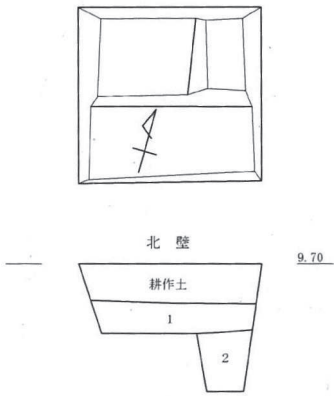
耕作土の下に1～9層の土層を確認した。1層は茶褐色ブロックを含むことから、8層を削平したものであり、神社側の高台を削り下げ、現在の耕作土の水田まで広げたもの、もしくはその直前の水田と判断した。2～7層は同一遺構の埋土と考えられる。2層が最終の堆積で、大きさ15cm以下の円礫・角礫が南側斜面に沿って石列として検出された。古墳であれば葺石といえるかもしれないが、これ以下の斜面で検出できないことから葺石の可能性は低いと判断した。3～5層は土質が大きく異なっており、4層が8層のブロック、5層が円礫を多く含むもの、3層が8層を含むもので、3・4・5層と自然に堆積した状況になく、埋め戻したものと考えている。その下には6層があり、円礫を多く含み、土師質の火鉢が出土している。硬くしまった土層となっており、これも埋め戻したものと判断した。遺構の底面は平坦で、厚み2cmにも満たない7層のシルトが薄く堆積していた。底幅は、0.8mほどで、検出できた掘り込み幅は1.4mである。小規模な箱堀と推測される。

T-3の状況を東側においても確認するために、**T-4**を設定した。

耕作土の下に1・2層があり、その下、4層の面で3層を埋土とするT-3から続く遺構を確認できた。幅は、0.8mであるが、神社側となる南側の4層が再堆積土層となる可能性もあり、いままし広くなるかもしれない。遺構は検出のみとし、掘り下げを行っていないため、深さについてはわからないが、箱堀と考えている。2層からは、近世～近代の瓦・磁器片が出土しており、焼却灰を多く含むことから片付け土の堆積になると推測される。

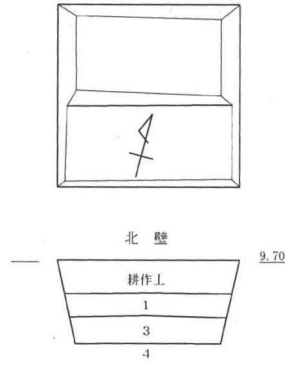
さらに、T-3の西側に**T-5**を設定した。幅0.5m、長さ1.5mの規模である。耕作土の直下で4層となった。その上面において1～3層による掘り込み遺構を検出した。遺構は検出のみで、掘り下げは行っていない。遺構幅は、2・3層をT-3と同様の埋め戻し土と仮定した場合で1.0m、1層のみ

T-1



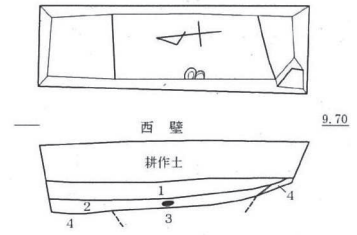
- 1 灰褐色粘質土
- 2 褐色～茶褐色粘質土

T-2



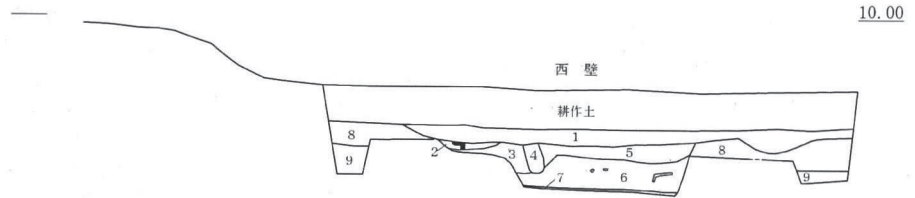
- 1 灰褐色シルト
- 3 淡褐色粘質土
- 4 灰色砂礫

T-4

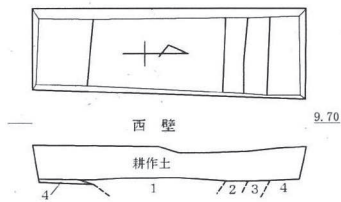


- 1 淡橙灰色シルト
- 2 黒褐色粘質土
- 3 橙灰色シルト
- 4 橙褐色シルト

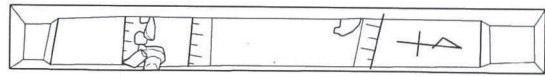
T-3



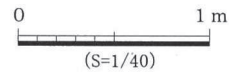
T-5



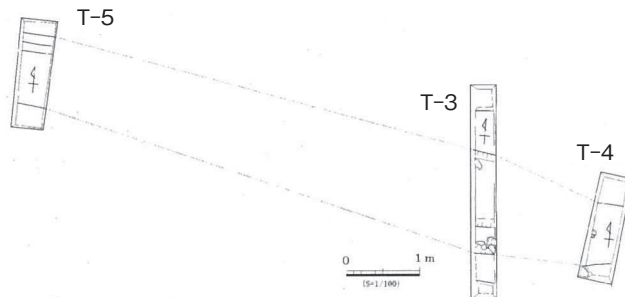
- 1 淡灰褐色シルト
- 2 褐色シルト
- 3 茶褐色混じり褐色シルト
- 4 赤褐色シルト



- 1 茶褐色ブロック混じり灰色シルト
- 2 灰色シルト
- 3 灰褐色シルト
- 4 褐色シルトブロック
- 5 褐色粘質土
- 6 褐色礫混じり砂質土
- 7 灰色シルト
- 8 茶褐色シルト
- 9 淡橙褐色粘質土

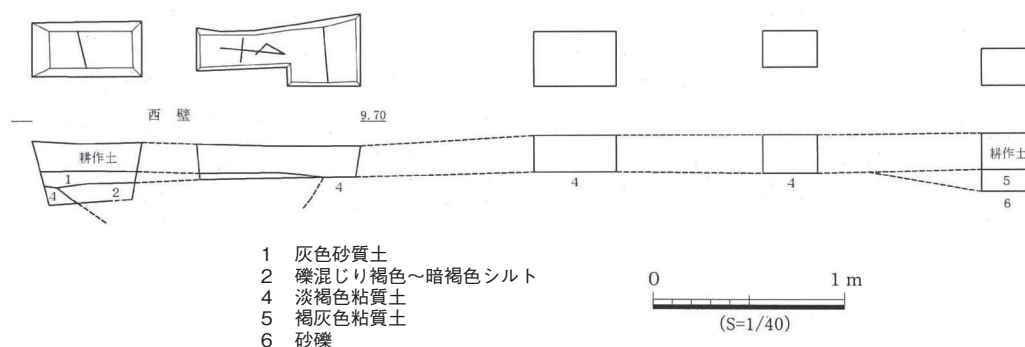


第18図 トレンチ平・断面図①<T-1～T-5> (S=1/40)



第19図 T-3～5位置図 (S=1/100)

T-6



第20図 トレンチ平・断面図②< T-6 > (S=1/40)

では0.73mを測る。

T-3の掘り込み遺構を、T-4・5においても確認することができた。検出幅は0.8～1.4mと差があり、またトレンチ幅が狭いことからやや方向を異にして一直線になっていないものの、N-80° - Wの方向となる。石鎚神社の盛土状高まりの正確な方向が未測量であることから比較できないが、ほぼ平行になっている可能性が想定できる。しかし、現況の深さは0.25mと浅く、神社の高台を加えても1m程度である。幅も斜面を延長して2m前後で復元している。ただ、盛土状高まりを加えると3.5mを越えることから、防御的機能は満たしている可能性がある。

T-6は、T-3の延長上で8層（ここでは4層）とした土層の北側での状況を確認するために設置した。一番遠い北側では、耕作土下が褐灰色砂質土となり、その下が砂礫というT-2に酷似した状況であったことから南に向かってサブトレンチを順次設定した。

結果、南側の二つのサブトレンチで、2層を埋土とする溝を検出した。掘り下げていないので、T-3内の箱堀となるかはわからないが、石を多く含むことから埋め戻したもので、同時期に廃棄したものと考えたい。

最後に、箱堀となる溝の性格についてであるが、当初、石鎚神社の盛土状高まりを古墳の墳丘の残骸と想定し、調査では葺石状の石列が残っていたが、溝内より土師質火鉢が出土したことから、古墳の可能性はないと判断した。

盛土状高まりには表面上に多数の円礫が認められる。また、近世瓦も認められ、神社の整備において改変がなされているが、円礫を含んだ土砂で築造されたものと思われる。将来的には調査が必要であろう。

この周辺は、旧清水村であり、備中高松城の城主であった清水宗治の本貫地という。『備中集成志』に賀陽郡八田部領清水城主清水宗則とあり、『備中誌』にも古城として記載されている。地元では、この盛土状高まりが清水城跡との言い伝えもあるようだ。石鎚神社のほかに毘沙門天を祭っていると云われ、北面を守護するものとなる。このような状況より、今回の箱堀の溝は、小規模ながら盛土状高まりに付随した堀と考えるのが妥当と思われる。今後は、西側の状況などについて追加調査等が必要であろう。

(前角)



## 5. 電柱建柱工事に伴う立会調査

遺跡名 名称未定遺跡

所在地 総社市福谷1375-6地先

調査日 2021年12月3日

調査面積 約0.5㎡

### 調査概要

調査地は、総社市街地から北西約5kmに位置する、高梁川西岸のやや小規模な沖積平野上に営まれた名称未定遺跡内に位置している。近隣では調査例がほとんど無く、周辺の状況は不詳である。

今回の調査は、建柱機による約2mの掘削を立会した。その結果、約2m下層まで灰茶色粗砂礫層が堆積しており、この地点での遺構・遺物は確認できなかった。

以上の調査結果から、今回の調査地は西側に存在する鍵山の裾野と高梁川との間に河川作用によって形成された小規模な平地に位置していることが判明した。(高橋)



第5図版 掘削状況



第6図版 柱穴断面



第22図 土層柱状図  
(S=1/40)



第21図 調査地位置図 (S=1/5,000)



## 6. 県道271号総社足守線道路改築工事に伴う試掘調査

所在地 総社市黒尾地内

調査期間 2021年12月20日～24日

調査面積 約5㎡

### 調査にいたる経緯

県道の改築範囲は周知の遺跡に該当していないが、「福井新田の古土手」と呼称されている土手状遺構を含むものであり、この土手状遺構が鬼ノ城に関連する遺構となる可能性が想定されていることから、事前の試掘調査を実施した。

古土手を挟む南北の丘陵地上には古墳群の所在が知られており、平地部においても粘土採掘のための土壌群が検出された服部遺跡が所在しており、周囲には周知されていない集落遺跡等が存在するものと考えられる。ただし、砂川は天井川であり、青谷川による氾濫も著しかったと推測され、これまでの既存調査地点からは明確な遺構等は確認できていない。

### 調査の方法

試掘調査は、手掘りによるトレンチ調査として実施した。路線内の全体像を先に把握するため、北から南東に向かってT-1からT-5を、その後、トレンチ間で北に戻るよう調査状況を加味しつつT-6からT-10を設定した。また、古土手と、その取り付きにあたる水田については、次年度の工事であったことから、今回の調査対象としていないが、最重要地点であり、次年度においても調査を実施する必要がある。

### 調査概要

T-1は、調査地の北端に位置する水田であるが、古土手の東側に取り付く水田より一段高い区画となっている。古土手の東側には、北から南方向に延びる低丘陵が存在し、その先端付近に位置している。耕作土の下に、8層の土層を確認した。砂質土が主体となり、1・2層は東に向かって傾斜する。3層も東に落ち込んでいる。4・6・7層は締まった土層である。5・8層には鉄分が付着し、5層からの湧水は非常に多い。

遺物は出土していない。

T-2は、T-1の南、約20mの位置で、T-1より0.3m低い、古土手との間の水田よりは一段高い。耕作土の下に4層を確認したが、薄く堆積する2層の砂層を上下に挟む1・3層もわずかな層厚で砂質土、多くは4層であった。4層は暗灰色の粘質土が混じり、底面以下1mも軟質で粘土も多くなり、泥臭さや枝などの木質部を残すことから沼地状と推測される。

遺物は、4層のトレンチ底から出土した土師器である。

T-3は、T-2より南、約40mである。T-2-3間の水田については湿田状態にあり、帯水していたことからトレンチの設定はできなかった。3の北側が古土手の最も低い位置にあたり、土手の南端に設置されている排水路が東へ流れて、深さも1m近いことから湿田となる。耕作土の下に5層を確認した。1・2層は砂を多く含み、3層は洪水砂である。4・5層は粘土で、5層は青灰色を呈し、帯水状態となる。底面より0.7mで砂となり、不安定な堆積過程であったと推測できる。

遺物は出土していない。



第23図 調査地位置図 (S=10,000)



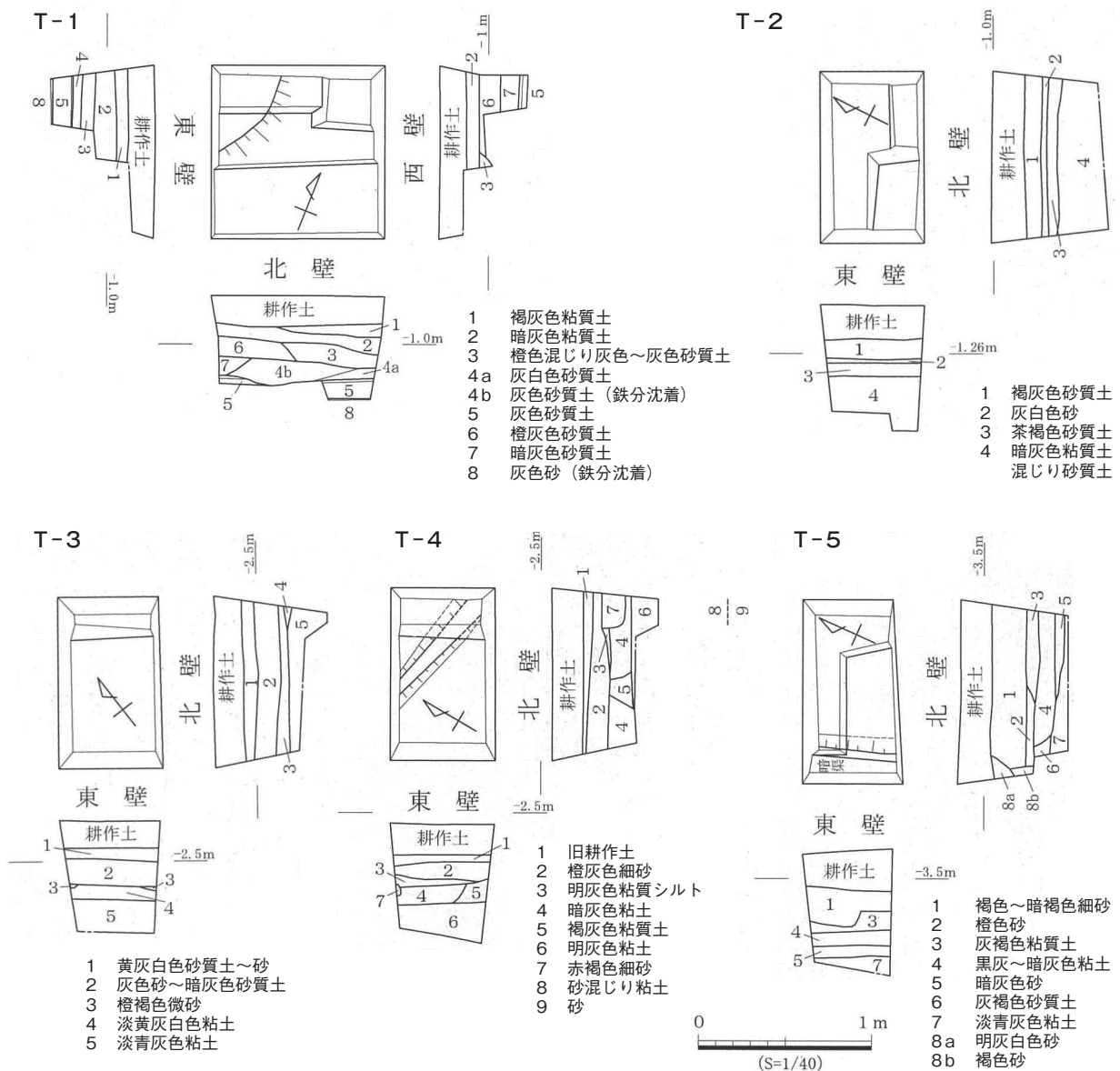
第24図 トレンチ配置図 (S=2,000)

T-4は、T-3から南へ約45mの地点である。耕作土の下に6層を確認した。1層は耕作土と2層の混在したものであり、2層が洪水砂となることから水田の復旧作業に関するものか。2層の下には4・5層があり、5層が畦畔、4層が旧水田耕作土層である。6層は粘土で、それ以下は-0.4m以下で砂まじり、-0.5m以下で硬い砂となる。遺構は、5層の畦畔と、赤褐色砂を埋土とするピットである。4層はグライ化しており、その下の6層も粘土であり湿田となる。

遺物は、4層中よりサヌカイト片が2点出土している。風化により白色となっている。

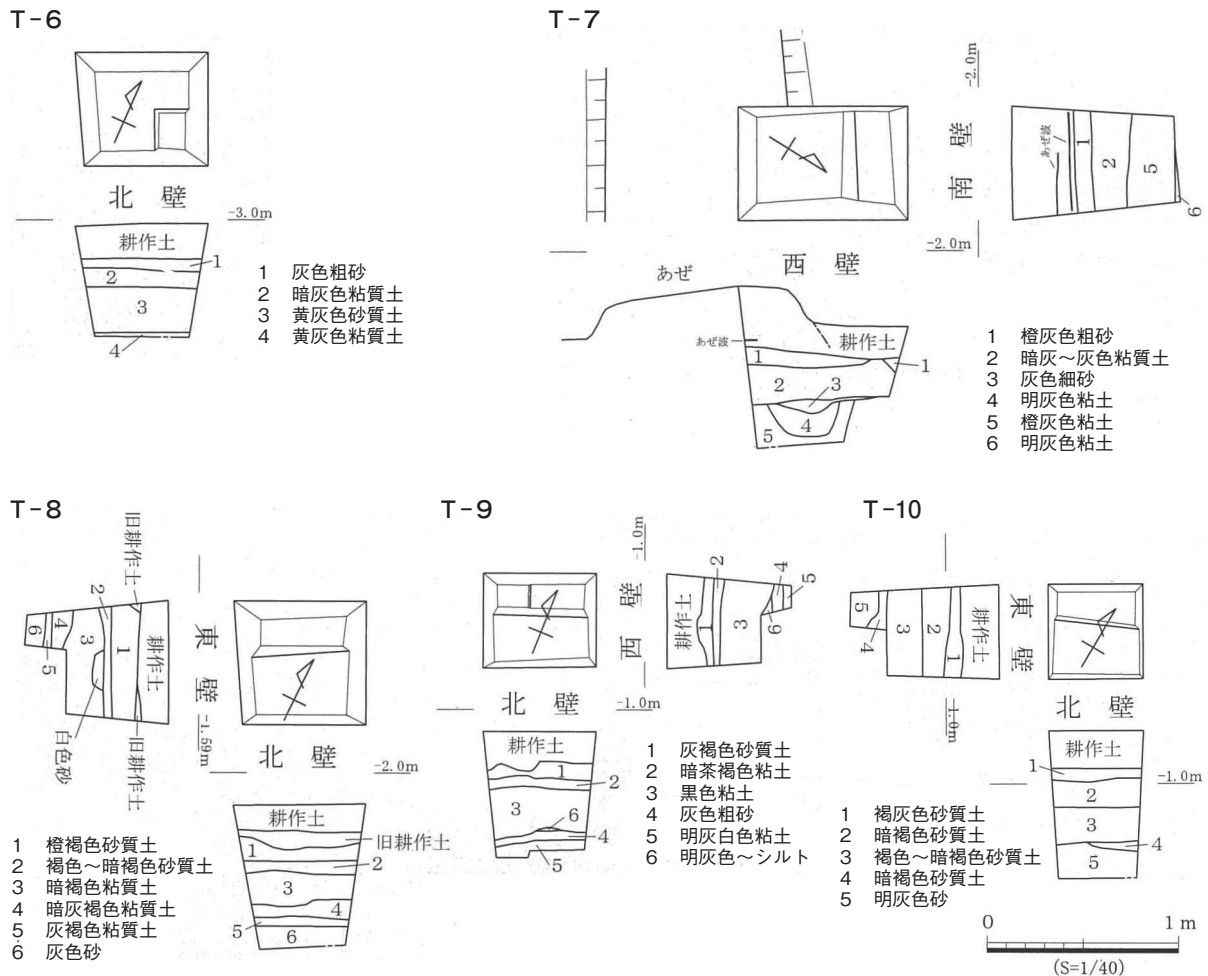
T-5は、トレンチ4から東へ約70mの地点で、路線の東端に位置する。耕作土の下に8層を確認した。8a・8b層は暗渠である。1は洪水砂で、これまでのトレンチと比べて層厚がある。これは古土手の南端を流れている排水路が北側に位置することから谷地形の中央筋にあたることによる。2・5層も砂、3・6層が砂質土、4・7層とそれ以下-0.8mまで粘土で、交互に堆積しており、不安定な地形となる。4層は黒色土で落ち込みもしくは包含層か。

遺物は3層中より、須恵器の甕胴部片が1点出土した。



第25図 トレンチ平・断面図①<T-1～T-5> (S=1/40)





第26図 トレンチ平・断面図②< T-6～T-10> (S=1/40)

T-6は、T-4・5の中間地点に設置した。T-4・5は排水路の南側で、T-6は北側に位置する。耕作土の下に4層を確認した。1層の粗砂、2層の粘質土、3層の砂質土、4層の粘土となる。底面より-0.25mで硬いことから、谷地形の低位部は南側と推測される。

遺物は出土していない。

T-7は、T-4の北西約20mの地点で、古い畦畔が現在の畦畔の下に存在するかどうかを確認するため、現在の畦畔にかかるように設定した。古い畦畔は検出できなかった。現在の畦畔中にはあぜ波板が埋め込まれていた。畦畔を広げているか、あるいは新しく築いている可能性が高い。1層の洪水砂が畦畔の下に存在し、耕作土は砂まじりとなること、畦畔の北と南の水田区画に高低差がないことから、水田区画を変更し、新たに築いたものと考えたい。2層は砂まじりの粘質土で、土色から包含層とみられるが、遺物の出土はなかった。5・6層は粘土で、6層はT-4の6層と同じか。底面より-0.4mで硬くなる。遺構は、3・4層を埋土とする溝が1条である。3層の洪水砂で埋没する。

遺物は出土していない。

T-8は、T-7とT-3の中間地点で、西側に一段高い地形となることから、その状況を路線内において確認するために設定した。耕作土の下に、旧耕作土的な堆積層を検出したが、北と東壁で異なっており、水田区画を広げるため等の造成土かもしれない。1層から6層、3層を除いてほぼ水平堆積であり、1・2層が砂質土、3～5層が粘質土で、6層が砂である。底面も-1mが砂であり、現在

のように地形が高くなったのは6層の洪水砂堆積によるものと考えられる。

遺物は出土していない。

T-9は、T-2と同じ水田区画の北東端に設定した。北側は一段高い地形となる。

耕作土の下に6層を確認した。3層が黒色粘土で、T-2の4層につながるもので、その高低差は約25cmである。3層の下にわずかに6層が存在し、4層は洪水砂である。5層は粘土で、底面以下-1mまで砂の貫入も認められるが軟質の粘土である。

遺物は出土していない。

T-10は、T-1と同じ水田区画の西端に設定した。耕作土の下に5層を確認した。1～3層は砂質土で、4層は硬く、東側に広がる土層である。5層は砂であるが、非常に硬く、底面以下-0.1mもピンポールが打ち込めなかった。

遺物は出土していない。

## まとめ

10地点の調査の結果、遺構が検出できたのは、T-4の畦畔と、T-7の溝である。遺物が出土したのは、T-2・4・5であるが、その点数は10点に満たない。遺構は生産領域としての可能性を、遺物は包含層というより谷地形の埋没過程においてわずかに混入したもので、周囲において集落遺跡を想定させる状況にはなかった。

いずれのトレンチも砂と粘土を主体とする堆積層であり、古土手の南端を通過する排水路に沿っていることから、谷地形の中央部に位置しているものである。とくに、北東に位置する砂川は天井川であり、かつては黒尾から服部にかけて砂たまりが存在していたといわれるように、大量の土砂（砂）を押し流している。北西の青谷川も同様であったのではないだろうかと推測される。

集落遺跡は、T-1・2の北から北東に位置する低丘陵上と、古土手の南端に位置する丘陵先端部、通称「あまこ山」の東斜面に立地しているものと推測している。さらに、現在のような景観になるのは中世以降であり、それ以前は小谷が深く存在し、低丘陵とで多くの凸凹地形であったと推測される。低丘陵が削平されていなければ、その斜面においても集落遺跡が埋没している可能性がある。

現在、古土手といわれる土手状遺構は、西側に池が存在していたとの言い伝えが残るも、周囲に現存する溜池は小谷の最奥部に土手を築いた池であり、古土手のようなものは知られていない。あまこ山と北側の能満寺が建つ丘陵地先端部を直線的に結んでいるとすることや、古土手周囲の地形が平坦でなく、どこまで貯まる範囲であったのか詳細に検討する必要がある。

また、古土手があまこ山の北側斜面に取り付く位置においても大きく平坦面が築かれている。この平坦地の幅が古土手の幅と同じであり、丘陵頂部との斜面整形もかなり高さがある。 (前角)

## 7. 個人住宅浄化槽建設に伴う立会調査

遺跡名 大文字遺跡・栢寺廃寺

調査地 総社市南溝手字栢寺元295番27

調査面積 約3㎡

調査日 2022年1月14日

### 調査概要

調査地は、総社市街地の東方にあたる旧街道沿いに位置している。栢寺廃寺の遺跡地内にあたり、大文字遺跡の範囲内に含まれている。現状は水田上に客土して造成された宅地で、ここに建設中の個人住宅に伴う浄化槽を建設する予定であった。近隣では、岡山県立大学建設に伴って南溝手遺跡・窪木遺跡が調査され、縄文時代から室町時代にかけての集落遺跡が多数検出されている。また東約200mに位置する保育園の建設に伴う発掘調査では、朝鮮半島系の軟質土器と在来系の土師器が共存しており、渡来人と在来の人と共に融合して暮らしていたことが特筆される。

そのため浄化槽掘削時に立会調査を行った。約1mの厚さの真砂土客土の下は、75cm下まで茶灰褐色土層が堆積しており、微高地上に位置していると判断されたが、遺構・遺物は認められなかった。(高橋)



第7図版 調査地全景

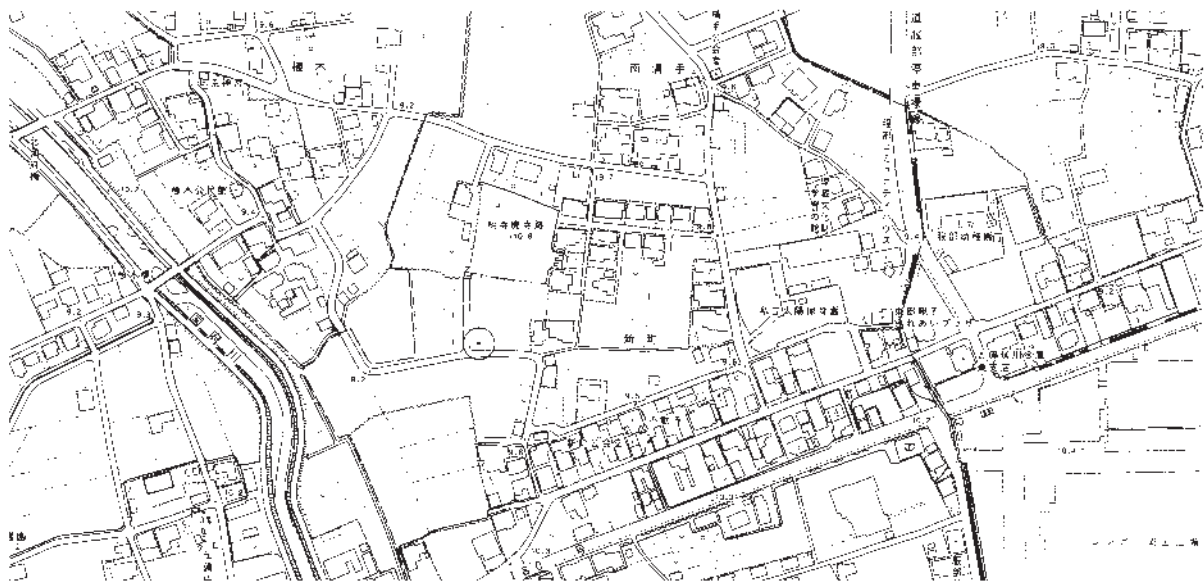


第8図版 浄化槽掘削断面



- 1 真砂土他客土
- 2 茶灰褐色土 (微高地)

第28図 土層柱状図 (S=1/40)



第27図 調査地位置図 (S=1/5,000)



## 8. 電柱建柱工事に伴う立会調査

遺跡名 南溝手遺跡 所在地 総社市窪木734地先

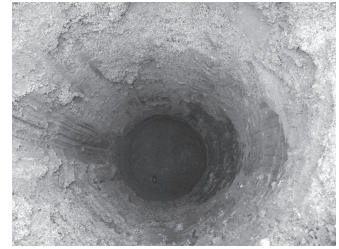
調査日 2022年2月4日 調査面積 約0.5㎡

### 調査概要

南溝手遺跡は、1993年度開校の岡山県立大学建設に伴う確認調査によって発見され、縄文時代後期から古代・中世までの長期間にわたる遺構の存続が確認されている<sup>(註1)</sup>。また近隣では、保育園建設に伴って大文字遺跡が調査されており、5世紀代の集落址が検出され、朝鮮半島系軟質土器と在地の土師器が共に出土していることから、渡来人と在地の人が融合して生活していたことが推測されている<sup>(註2)</sup>。



第9図版 調査地全景



第10図版 掘削断面



1 耕作土  
2 (暗)茶灰色砂質土層

今回の立会調査は、電柱の建設に伴って実施した。基本的な層序は、水田耕作土の直下に基盤層と考えられる(暗)茶灰色砂質土となっていた。このことから、調査地は微高地上に位置していると判断された。

以上の調査結果から、今回の調査地は南溝手遺跡内の安定した微高地上に位置していると推定された。(高橋)

### 第30図 土層柱状図 (S=1/40)

(註1)「南溝手遺跡1」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』100 1995  
「南溝手遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』107 1996  
(註2)「南溝手地内の保育所建設に伴う発掘調査概要報告」  
『総社市埋蔵文化財調査年報』22 2013



第29図 調査地位置図 (S=1/5,000)





### 3. 発掘調査・市史跡確認調査の概要



# 1. 駅前二丁目地区における店舗建設に伴う発掘調査

遺跡名 荒神ヶ市遺跡

所在地 総社市駅前二丁目16番101, 16番108

調査期間 2021年6月30日～8月31日

調査面積 268.86㎡

## 調査概要

駅前二丁目に店舗の建設が計画された。

道路を隔てた南側では、駅南区画整理事業に伴う発掘調査によって荒神ヶ市遺跡の存在が明らかになっており、5世紀以降の鍛冶関連遺構が広く分布していた。床面から鍛冶炉の痕跡が検出された住居址も存在し、鍛冶工房の可能性が考えられた。鍛冶炉で使用する炭を作るための炭窯も、住居址の周辺から検出されている。なお、特筆すべきこととしては、土壌から1mを超える大刀が曲った状態で出土したことであり、集落内でこのような大刀が出土することは非常に稀である。

以上、これまでの調査成果から、道を隔てた北側の建設予定地においても同様の遺跡が広がる可能性が高いと考えられ、確認調査を実施した。

確認調査では敷地内に4か所のトレンチを設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。いずれのトレンチからも遺構や遺物が検出され、特に調査区南半に多くみられる傾向にあった。

当初、敷地内をすべて掘削する予定であったが、1,600㎡を超える面積を調査するには、長い期間が必要となるため、工法が変更され建物と看板部分のみの掘削となった。調査期間は6月28日から8月31日までで、9月1日に明け渡すことになっていた。

調査は6月30日から実施し、表土剥ぎの後、遺構が検出できる面まで下げて遺構検出を行った。



第31図 調査地位置図 (S=1/5,000)

調査の結果は以下のとおりである。

まず、弥生時代後期に幅約3.2mの溝が掘削され、溝が廃絶されたのちに大量の土器が廃棄された。

その後、古墳時代後期にあたる6世紀になって3軒の住居が建てられている。3軒の住居址は、いずれも竈を据え付けており、竈の下面は赤く焼けていた。住居址内からは須恵器や土師器などが出土し、甎の破片も見受けられた。また、鍛冶に関連すると想定される、高温によって溶けた滓も出土している。そのほか住居址-2と住居址-3からは、住居が廃棄された後に築かれたと思われる炭窯がそれぞれ1基出土している。また古墳時代の土壙や柱穴も検出され、須恵器や土師器のほか鉄滓なども認められた。

なお、古墳時代後期の遺構が埋没した後、平安時代から中世の土壙や柱穴が多数量削されている。柱穴の中には底に礎石を置いたものも幾つか見受けられた。

以上、検出された遺構は、弥生時代の溝1条、古墳時代後期の住居址3軒・鍛冶炉1基・炭窯2基、弥生時代から中世の土壙13基・柱穴290である。出土した遺物は整理用コンテナ20箱分であった。

今回の調査によって、駅南区画整理事業で発見された鍛冶関連遺跡がこの地にまで広がっていることが明らかになった。

(平井・高橋)

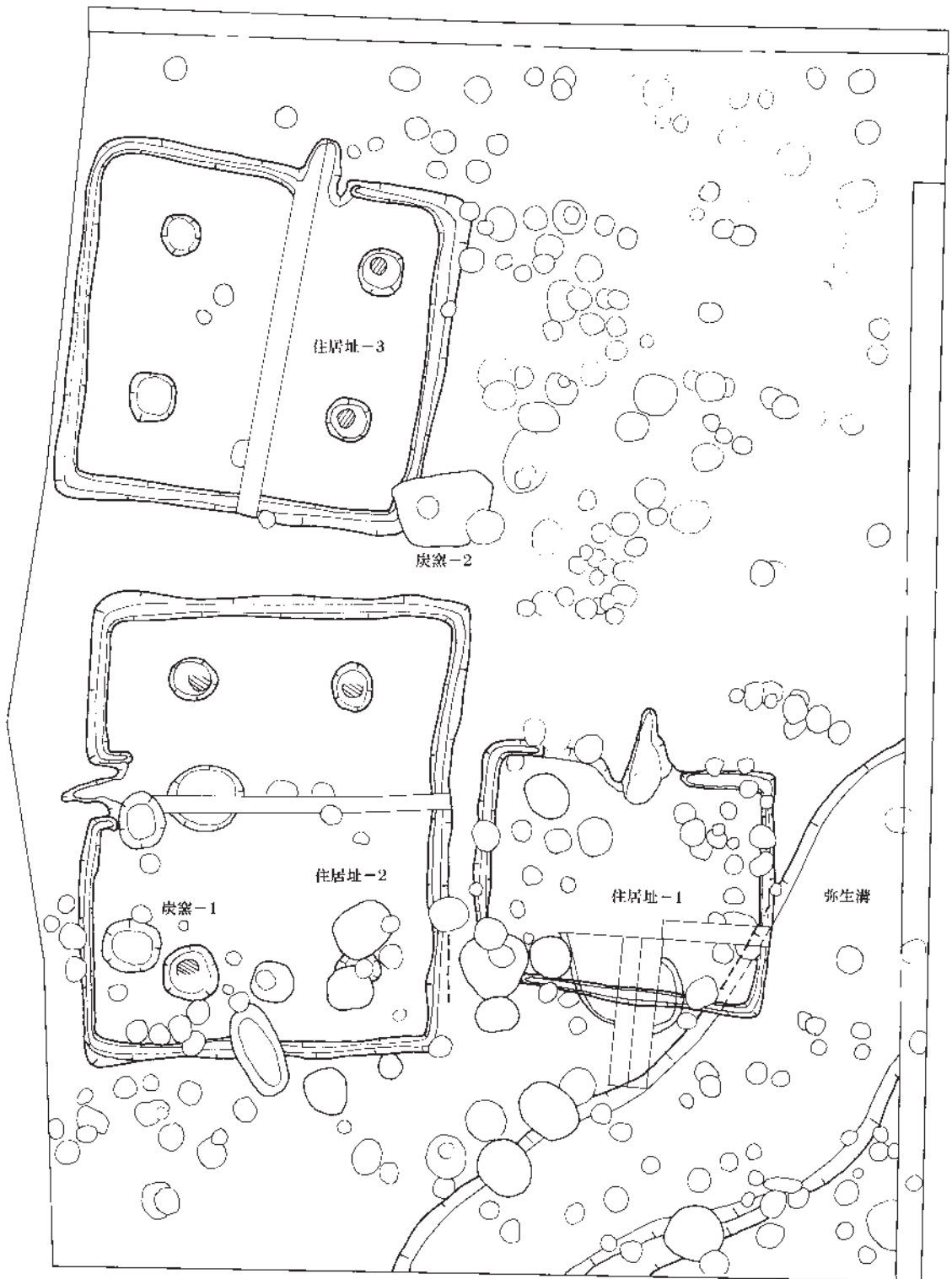
## 関連文献

- 高橋進一2004 「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』13
- 平井典子・高橋進一2005 「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』14
- 平井典子・高橋進一2007 「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』16
- 高橋進一・平井典子2008 「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』17
- 高橋進一2011 「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』20
- 高橋進一2012 「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』21
- 平井典子2014 「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』23

Y=54380

Y=54370

X=147320



第32図 遺構配置図 (S=1/100)





第11図版 住居址-1の竈の半裁状況



第12図版 住居址-2埋没後に築かれた炭窯-1の被熱壁面の



第13図版 P-34高杯出土状況



第14図版 柱穴内の礎石



第15図版 調査区完掘状況



## 2. 宿小山古墳前方部の確認調査

調査地 総社市宿156-1

調査期間 2022年1月26日～2月25日, 3月3日～3月29日

調査面積 37.9㎡, 22㎡

### 調査概要

宿小山古墳の確認調査は、武田恭彰、間所克仁、前角によって、2019年11月11日～2020年10月7日までの間、円丘部を中心にT-1～T-14までのトレンチ調査が実施された。その結果、円丘部の周濠と北側に前方部前端が確認できたことから、円墳と考えられていた宿小山古墳は帆立貝形前方後円墳であることが判明した。前方部前端と推定される箇所はT-14で検出され、T-10・11～14では周濠も確認された。この調査結果については、『総社市埋蔵文化財調査年報』30<sup>(註)</sup>で報告されている。

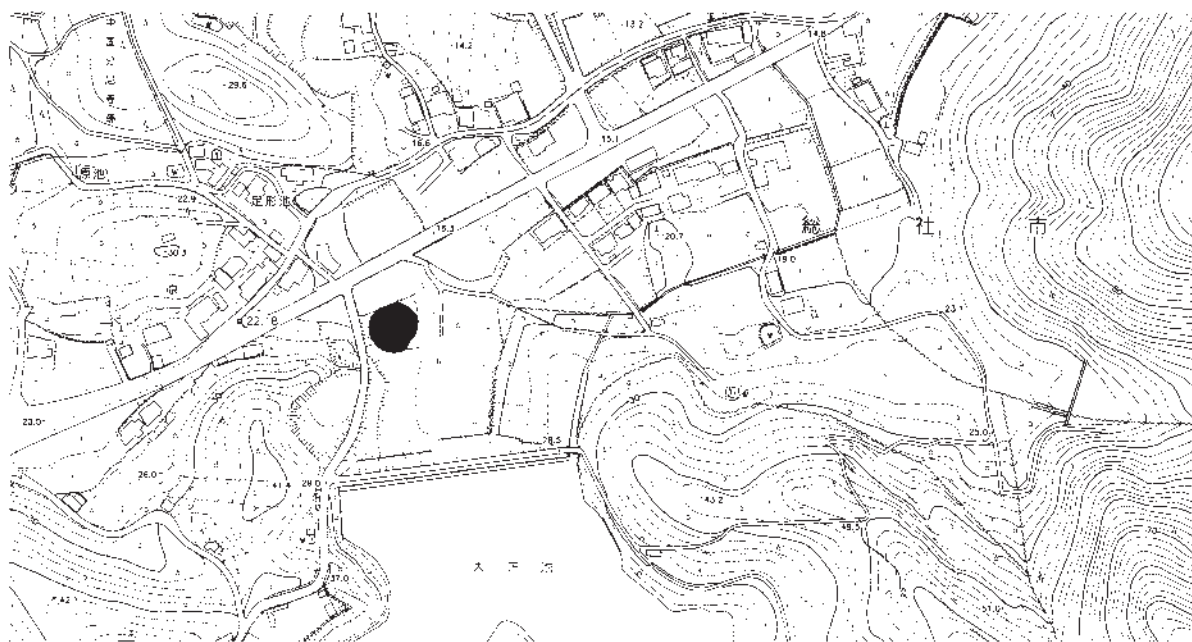
このように宿小山古墳の重要性が明らかになったため、2020年11月16日に、市指定文化財に指定された。

しかし、くびれ部の位置と前方部の形状が不明なため、2023年1月26日～3月29日まで、平井、高橋が前方部を中心に再度調査に入った。

なお、2022年1月26日～2月25日まで、前方部の西半を調査し、いったん調査を終了したが、予算の関係から調査が可能となったため、3月3日～3月29日まで前方部東半の調査を実施した。

まず、くびれ部の位置を明らかにするために、T-13の北西にT-15を設定した。このトレンチでは、西側に墳端と周濠の落ちが確認されたが、この墳端とT-14の西側墳端を結ぶとかなり斜めになることから、T-16を設定して墳端のつながりを追った。

T-16においても、前方部西側に墳端と周濠の落ちが認められ、やはりT-15の墳端と直線的につ



第33図 調査地位置図 (S=1/5,000)



ながることが判明した。西端がどこまで延びるかを把握するため、T-12を掘り返してみたところ、このトレンチでは、T-15・16の西端につながる墳端は確認できなかった。また、トレンチ内には、葺石と考えられる石や埴輪片が東半部分に広く分布し、墳丘から転落したと想定される状況が認められた。そのため、広く浅いトレンチT-17・18を設定し、墳丘西端のつながりを追うことにした。

T-17では直線的につながったが、T-18ではT-12の手前で墳端が東側に曲がっていることが判明した。

この墳端が東に延び、前方部の前端になる可能性もあったため、東側にT-20を設定したがすべて地山で、周濠も認められなかった。このことから、墳端は途中で北に屈曲する可能性が生じたため、T-12の北側にT-21を掘削した。T-21からは、葺石と埴輪片が多数出土し、東端付近からは地山が検出された。地山は南北に延び、T-14の西側墳端にはほぼ対応することから、前方部の西側には造出が存在することが明らかになった。

なお、T-19は、くびれ部の位置を確認するために設定したが、南側には大きな攪乱が存在し、検出することができなかった。

3月からの2次調査では、前方部東側にも作り出しが存在するか否か、またくびれ部がどの付近に当たるかを主眼に調査を実施した。

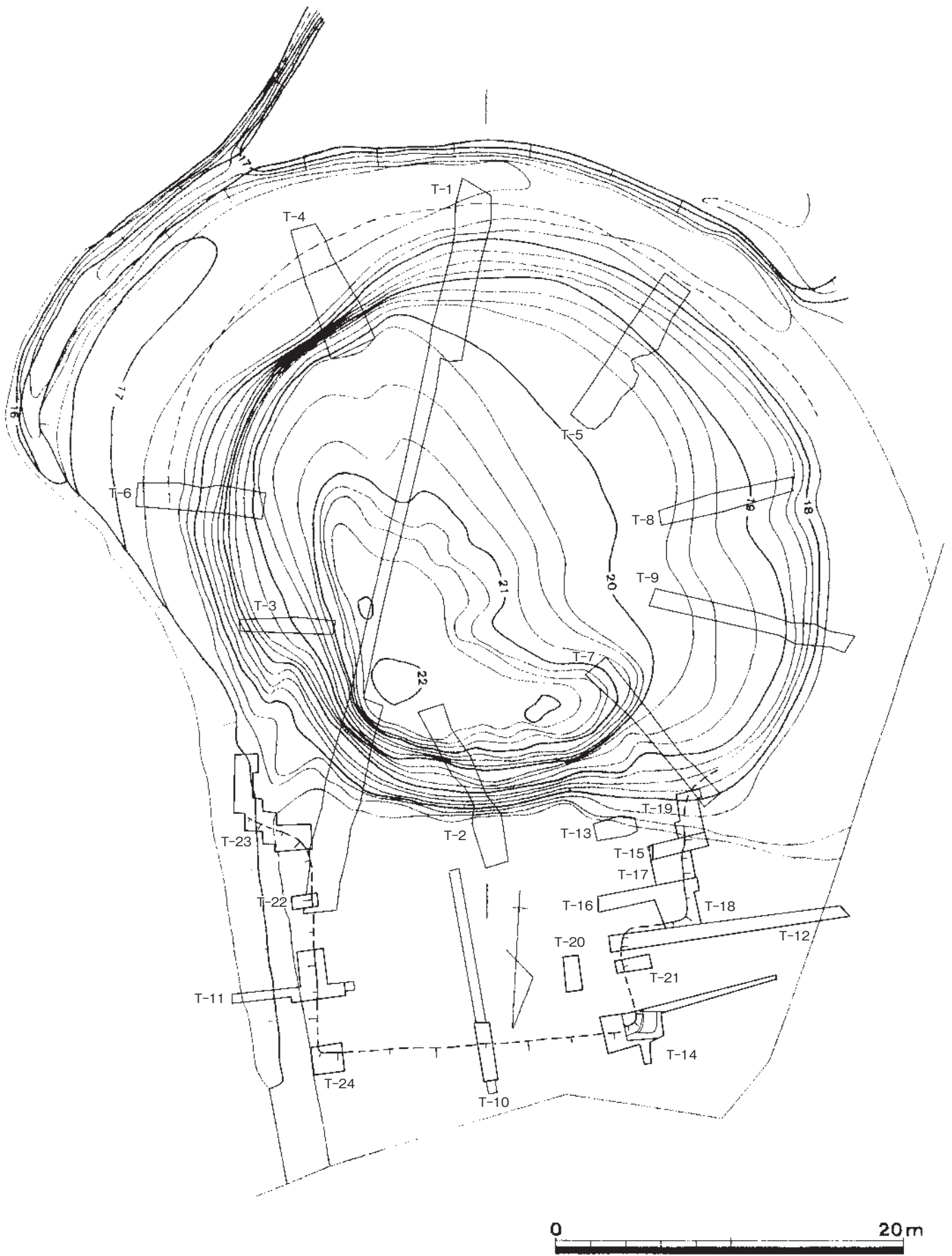
T-10の一部を再度掘り返し前方部前端を確認した。T-24では、前方部北東端を検出した。T-11を拡張し、前方部東端を検出した後、南側にT-22を設け、T-11につながる墳丘東端を確認した。このことから、東側に作り出しは存在しないことが判明した。

なおくびれ部付近と考えられる箇所にT-23を設定したところ、後円部との境付近に当たり、墳端には葺石が三段程度原位置のまま残存していた。南東方向にトレンチを延ばし、墳端の広がりからおおよその後円部径が出ないものかと掘り進めたが、かつて墳丘をブルドーザーで押した土が厚く堆積しており、確認できなかった。

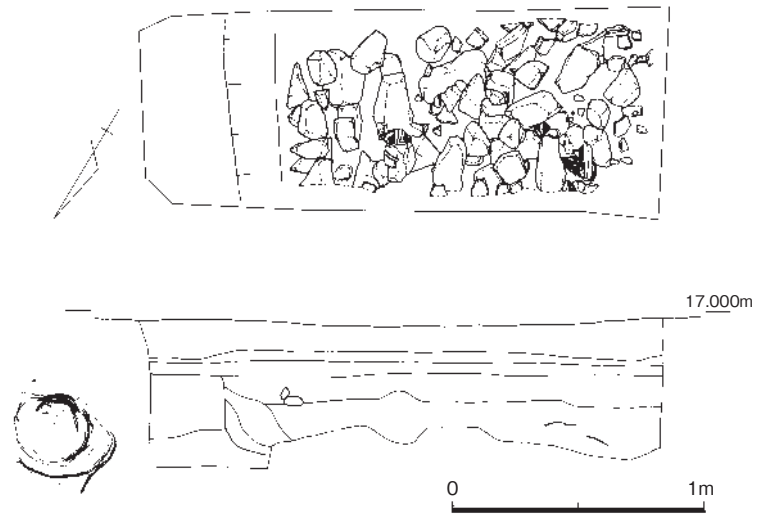
今回の調査で、宿小山古墳は前方部の西側にのみ造出が存在する全長約49m、前方部前端幅約19m、後円部径39m以上、造出しの長さ約6m・幅約4mの帆立貝形前方後円墳であることが判明した。

(平井・高橋)

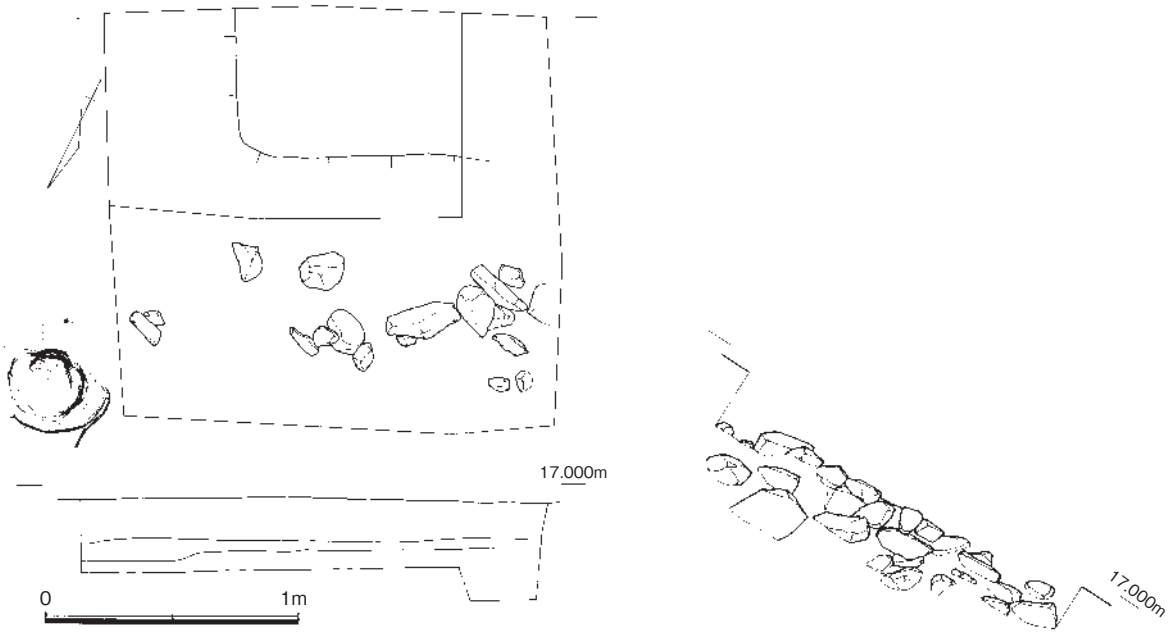
(註) 間所克仁2021 「宿小山古墳の確認調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』30



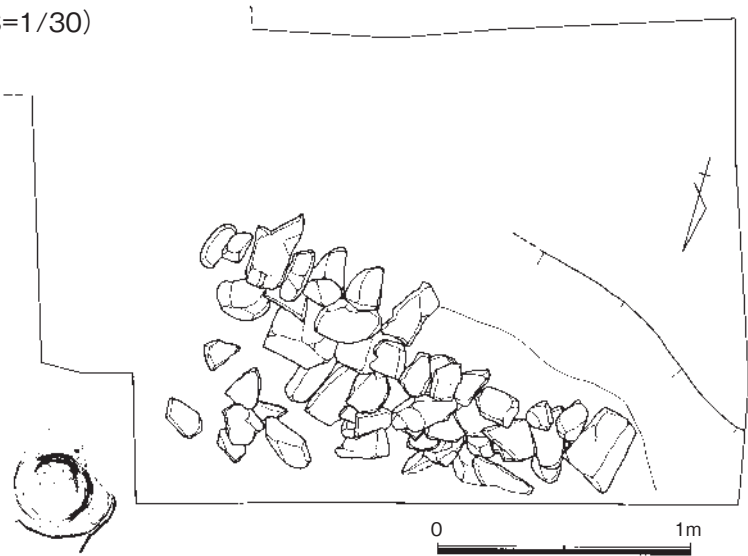
第34図 前方部の形状とトレンチ配置図 (S=1/300)



第35図 T-21平・断面図 (S=1/30)



第36図 T-24平・断面図 (S=1/30)



第37図 T-23平・立面図 (S=1/30)





第16図版 T-19検出状況（北から）



第17図版 T-17～T-19検出状況（北から）



第18図版 T-16～T-18検出状況（南から）



第19図版 T-12葺石転落状況（南から）



第20図版 T-21墳丘東端と葺石転落状況（西から）



第21図版 T-24前方部北東端検出状況（北東から）



第22図版 T-23葺石出土状況（北から）



第23図版 T-23葺石出土状況（東から）





## 4. 史跡整備事業の概要



# 1. 令和3(2021)年度 鬼城山環境整備事業

## ◎整備内容

当該年度は、標識柱の新設を行った。城内にある遊歩道の分岐点を中心に10か所の候補地をあげ、その中でも必要性の高い8か所において実施した。その箇所は以下のとおりである。

①「西門分岐地点」、②「山頂広場・第1展望」、③「管理道と礎石建物群跡方面分岐」、④「林間コース分岐点」、⑤「屏風折れ・東門中間点の分岐」、⑥「屏風折れの分岐」、⑦「北門跡」、⑧「東門跡へ下る分岐点」

## ◎整備委員会

当該年度の史跡鬼城山整備委員会は、通常では年2回の開催が、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から1回のみで開催（第52回）となった。

○第52回史跡鬼城山整備委員会：令和3年11月11日（木） 総社市役所山手出張所

整備委員会では、大きくは二つの議題が上がった。上記の整備内容で触れた標識柱の新設と当該年度8月に一部が崩落した復元版築土塁の取り扱いについてである。

### 1 標識柱の新設について

- ・日本語の下に英語を入れる。
- ・形態および色彩が、周辺の風致景観と調和すること。自然の環境にふさわしいこと。

### 2 復元版築土塁の再整備について

復元版築土塁については、当初令和3年3月に策定した『史跡鬼城山（鬼ノ城）環境整備 再整備基本設計書』に準じて取り行う予定であった。しかし先述したとおり令和3年8月に、西門東側の復元版築土塁の一部が幅約5m、厚さ0.3mにわたって崩落した（第24図版）。そのため、計画の順番を前倒しにして崩落箇所を優先する案を考えた。崩落箇所は、内側の発砲ウレタンが露出した状態であったため、紫外線対策としてアルミ箔を貼り、さらにシートで押さえて保護している。会議では、今回崩れた復元版築土塁を含めて、その原因を出来るだけきちんと調査して欲しいという指摘があった。また土塁の復元に関しては、強度を優先して、違和感の出ない程度に色調を配慮するように、との指摘があった。実際には白セメントを5%、あるいは7%ほど入れて補強する意見が出された。

なお復元版築土塁の天端は、上から降った雨が流れるのと同時に、下に浸透して土塁の表に流れ出ている。そのため復元版築土塁保護の観点から、上面をいずれは全面吹付で固める方針にしてほしいということと、当面は応急処置として灰色などの目立たない色のシートを敷くように、との指摘があった。後日、復元版築土塁の天端には、ブルーシートを全面に敷く処置をした（第25図版）。





第24図版 西門東側版築土壘損壊状況（南から）



第25図版 版築土壘天端ブルーシートによる保護（東から）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	そうじゃしまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	総社市埋蔵文化財調査年報 32
副書名	
巻次	
シリーズ名	総社市埋蔵文化財調査年報
シリーズ番号	32
編著者名	前角和夫, 高橋進一, 小林利晴, 岩橋惇也, 平井典子
編集機関	岡山県総社市産業部観光プロジェクト課
所在地	〒719-1163 岡山県総社市地頭片山17-1 TEL 0866-92-8363
発行年月日	2023(令和5)年3月31日



**総社市埋蔵文化財調査年報 32**

令和5（2023）年3月 印刷  
令和5（2023）年3月 発行

編集発行 岡山県総社市産業部  
観光プロジェクト課  
総社市地頭片山17-1

印刷 サンコー印刷株式会社  
総社市駅南一丁目1番地5



